第２期

健康たけとよ 21
スマイルプラン

― 中間評価・見直し ―

健康づくりはまちづくり

「みんな笑顔でイキイキと暮らせる町　たけとよ」

平成２９年３月

武　　豊　　町

目　次

第１章　計画の中間評価・見直しにあたって

１　中間評価・見直しの趣旨 …… １
２　計画の基本理念 …… １
３　計画の期間 …… １
４　中間評価・見直しの方法 …… ２
５　目標達成の評価について …… ３

第２章　分野別評価及び今後の方向性

１　健康づくり …… ４
２　栄養・食生活 …… １６
３　運動・身体活動 …… ２８
４　休養・こころの健康 …… ３７
５　アルコール …… ４４
６　たばこ …… ５１
７　歯・口腔の健康 …… ６１
８　子どもの健康 …… ６８

＜参考資料＞

（１）　住民に実施したアンケート内容 …… ８０
（２）　町内小学校高学年に実施したアンケート内容 …… ８７

第1章　計画の中間評価・見直しにあたって

１　中間評価・見直しの趣旨

武豊町では、「第２期健康たけとよ２１スマイルプラン」を平成２５年３月に策定し、計画を推進してきました。

この計画では、①健康づくり　②栄養・食生活　③運動・身体活動　④休養・こころの健康　⑤アルコール　⑥たばこ　⑦歯・口腔の健康　⑧子どもの健康の８分野を設定し、それぞれの分野の目標・具体的取組・目標値を掲げ、改善に向けて取り組んできました。

計画策定から４年目を迎え、各分野における取り組み状況等について中間評価を行い、健康づくりを取り巻く社会情勢等の変化を踏まえ、また国が策定した「健康日本２１（第２次)」、及び愛知県が策定した「健康日本２１あいち新計画」等との整合性を図りながら、今後の課題や方向性を見直しました。最終評価年度（平成３６年度）に向けて、住民の健康づくりを総合的にかつ効果的に推進し、健康寿命の延伸を図り、住民が笑顔でイキイキと暮らせるまちづくりをめざしていきます。

２　計画の基本理念

健康づくりはまちづくり

「みんな笑顔でイキイキと暮らせる町　たけとよ」

３　計画の期間

本計画の期間は、平成２５年度から平成３６年度までの１２年間です。今回は１回目の中間評価となり、平成３２年度に２回目を、平成３６年度に目標の達成状況の最終評価を行います。

４　中間評価・見直しの方法

（１）住民アンケートの実施

調査地域	：武豊町全域
調査対象者	：住民２０歳～７９歳の男女　２，０００人
抽出方法	：無作為抽出
調査期間	：平成２８年７～８月
調査方法	：郵送により配布、返信用封筒にて回収
有効回収数	：８４６人（４２．３％）

（２）町内小学校高学年へのアンケートの実施

調査対象者	：町内４小学校の４～６年生　１，３５７人
調査期間	：平成２８年６～７月
調査方法	：学校へ依頼をして実施
有効回収数	：１，３３１人（９８．１％）

（３）庁内会議の開催

計画策定から４年間（Ｈ２５～２８年度）の評価、今後における行政機関の施策の調整を目的とした会議を開催し、意見交換ならびに行政内部における連携の確認等を行いました。

（４）武豊町民健康づくり推進協議会による審議

平成２９年３月、「武豊町民健康づくり推進協議会・武豊町保健センター運営協議会」にて概要説明を行い、ご意見をいただきました。

５　目標達成の評価について

（１）達成率の計算方法

目標値が数値で定められている場合には、次の計算値から判定します。

$$\text{達成率} = \frac{(\text{中間評価} - \text{策定値})}{(\text{目標値} - \text{策定値})} \times 100\ (\%)$$

（２）判定区分

策定時の現状値と比較し、目標値にどの程度到達しているのかについて、以下のように判定を区分し、それぞれの分野の達成度を評価します。

評価区分		評価基準
Ａ（達成・概ね達成）		目標達成または達成率９０％以上 ・数値目標がない場合：あきらかな増加
Ｂ	Ｂ＋（改善）	ベースライン値より改善（達成率５０％以上９０％未満）
	Ｂ－（やや改善）	ベースライン値より改善（達成率１０％以上５０％未満）
		・数値目標がない場合：ベースライン値から５％以上
Ｃ（変わらない）		ベースライン値から変化がない（達成率−１０％以上１０％未満） ・数値目標がない場合：ベースライン値から−５％以上５％未満
Ｄ（悪化）		ベースライン値より悪化（達成率−１０％未満） ・数値目標がない場合：ベースライン値から−５％未満
Ｅ（判定不能）		基準の変更により判定ができない

※ベースライン値：計画策定時または中間評価時の値

※「健康日本２１あいち新計画」の評価方法に準ずる

（３）指標・目標値の見直し

「健康づくり」を取り巻く環境の変化等を捉えながら、指標・目標値の削除・変更・追加を行いました。

ア．計画策定時において設定された目標指標について、内容がより具体的で住民にとってわかりやすいものとするため、削除・変更を行いました。

イ．新たな健康課題や今後の事業展開に対応するため、新規指標を追加しました。

ウ．策定時の目標値で「増加」・「減少」としているものについては、今後の達成評価を踏まえて、できるだけ数値化を図ることとしました。

エ．策定時の目標値を大幅に達成したものについては、新たな目標値を設定しました。（次回中間評価に向けての目標値の欄に★印】

第2章　分野別評価及び今後の方向性

（１）健康づくり

めざす姿

からだも点検！今すぐ始めよう、全身メンテナンス

方向性

健康寿命の延伸・健康格差の縮小・生活習慣病の発症と重症化予防をめざす。

【個人・家庭の取組】
- ○　健診により自分の健康状態を把握し、健康に配慮した生活の実践と継続に取り組む
- ○　早期発見、早期治療に向けて、定期的に健診やがん検診を受診
- ○　地域の健康づくり活動への積極的な参加

【地域・職場の取組】
- ○　職場で年１回は必ず健診を実施し、結果に応じた指導を受けられる体制づくり
- ○　健康に関する情報を積極的に取り入れ、地域・職場で周知を図る
- ○　人と人とがつながりを持てるような機会を設ける

【行政の取組】
- ○　定期健診受診の普及・啓発
- ○　健康に関する情報の積極的発信
- ○　健康に関する相談体制の充実
- ○　メタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防の推進
- ○　がんの早期発見のため、職域のがん検診との連携など受けやすいがん検診の体制づくりを実施
- ○　地域の健康づくり活動における情報提供の充実
- ○　健診受診率の低い地域の受診率向上を図り、地域別格差縮小に努める

指標の達成状況

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
① 主観的健康感の向上				
自分自身が健康だと思う人の割合	75.3%	77.4%	増加	C
② がん検診の受診率の向上				
がん検診の受診率				
胃がん	3.1%	3.5%	40.0%	C
大腸がん	5.9%	7.8%	40.0%	C
肺がん	10.3%	10.4%	40.0%	C
子宮頸がん	6.3%	6.6%	50.0%	C
乳がん	7.5%	8.8%	50.0%	C
③ メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少				
（特定健診受診者のうち） メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率				
該当者	23.0%	22.3%	25%減少	B-
予備群	10.8%	11.6%	25%減少	D
④ 特定健診・特定保健指導の実施率の向上				
（国民健康保険被保険者のうち）				
特定健診の受診率	51.2%	52.2%	60.0%	B-
特定保健指導の実施率	8.3%	18.6%	60.0%	B-
最低受診区の受診率	38.9%	47.8%	50.0%	B+
⑤ 地域のつながりの強化				
この地域で安心して暮らしていると思う住民の割合	未把握	92.7%	100.0%	E
⑥ 趣味の会、スポーツの会に参加している住民の増加				
趣味の会、スポーツの会に参加している住民の割合	20～64 歳　未把握 65 歳以上　43.1% （H22 年度）	31.3%	増加	D
⑦「憩いのサロン」拠点数の増加				
憩いのサロン拠点数	8 か所	13 か所	14 か所	B

【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①⑤⑥	健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価アンケート	健康課
②	平成２７年度地域保健報告	健康課
③④	健康かるて 平成２７年度国保データベースシステム（以下、ＫＤＢ） 帳票「地域の全体像の把握」	保険医療課 健康課
⑦	庁内資料	福祉課

削除・変更した指標

変更前		変更後
健康寿命（日常生活に制限のない期間の平均）	⇒	削除
理由：健康寿命を計算する上で必要な全てのデータを算出することが困難であり、正確な健康寿命を求めることができないため。		
健康格差の把握	⇒	削除
理由：健康格差に関する把握は、より具体的な評価ができるよう見直し、他計画やアンケートに合わせて実施しているため。		
地域の人が信頼できると思う住民の割合	⇒	この地域で安心して暮らしていると思う住民の割合
理由：住民にとって、より分かりやすい指標とするため。		

現状・考察

【がん検診の受診率について】

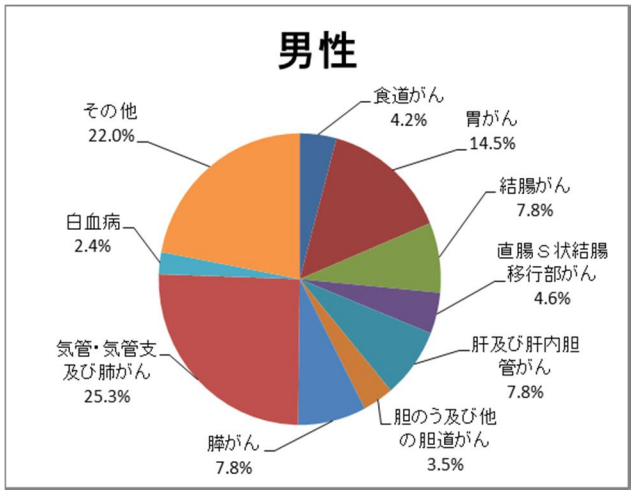
地域保健報告におけるがん検診受診率の算出方法が変更となったため、正確な比較が困難になった。そこで、平成２３年度の結果を平成２７年度と同様の計算方法で算出し、比較することとする。

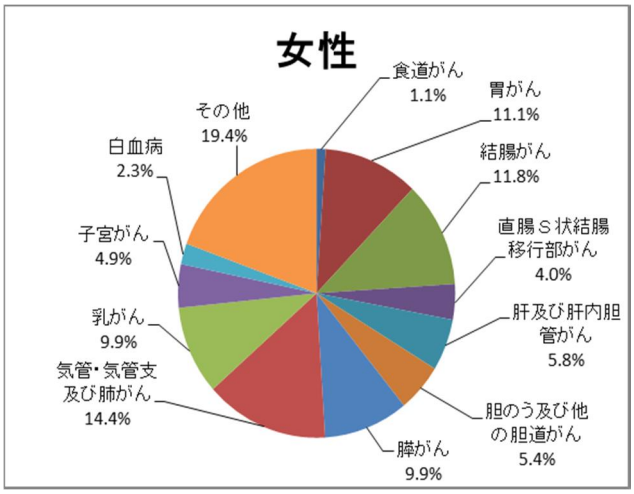
平成２３年度のがん検診受診率は、胃がん検診３．１％、大腸がん検診５．９％、肺がん検診１０．３％、子宮頸がん検診６．３％、乳がん検診７．５％となり、全ての検診において平成２７年度で増加している。

今後は平成２７年度の計算方法で算出し、推移をみていくこととする。

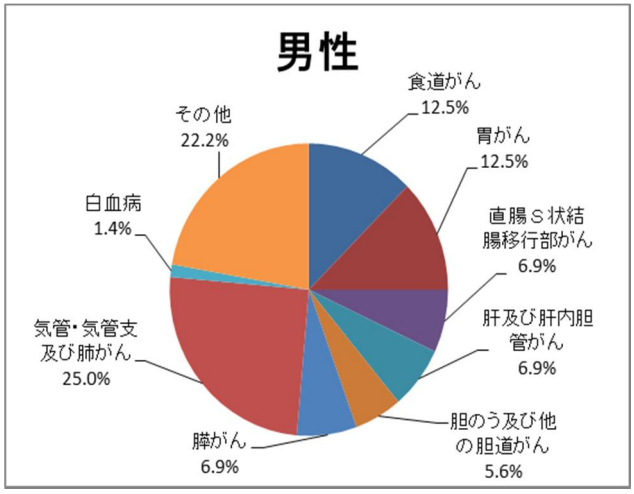
【悪性新生物による死因別死亡割合】

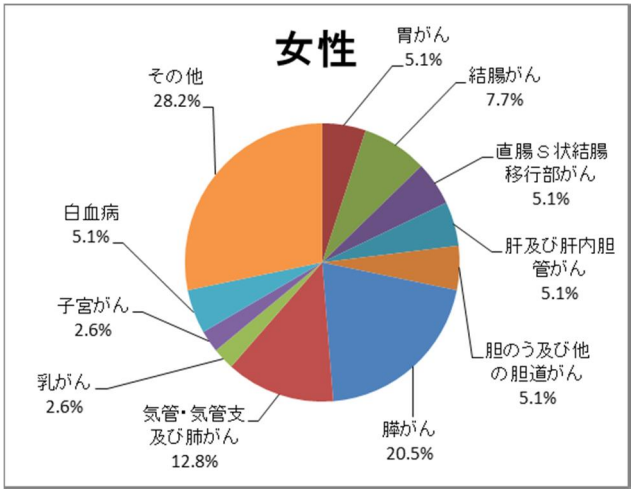
愛知県





武豊町





資料：人口動態調査（平成２７年度）

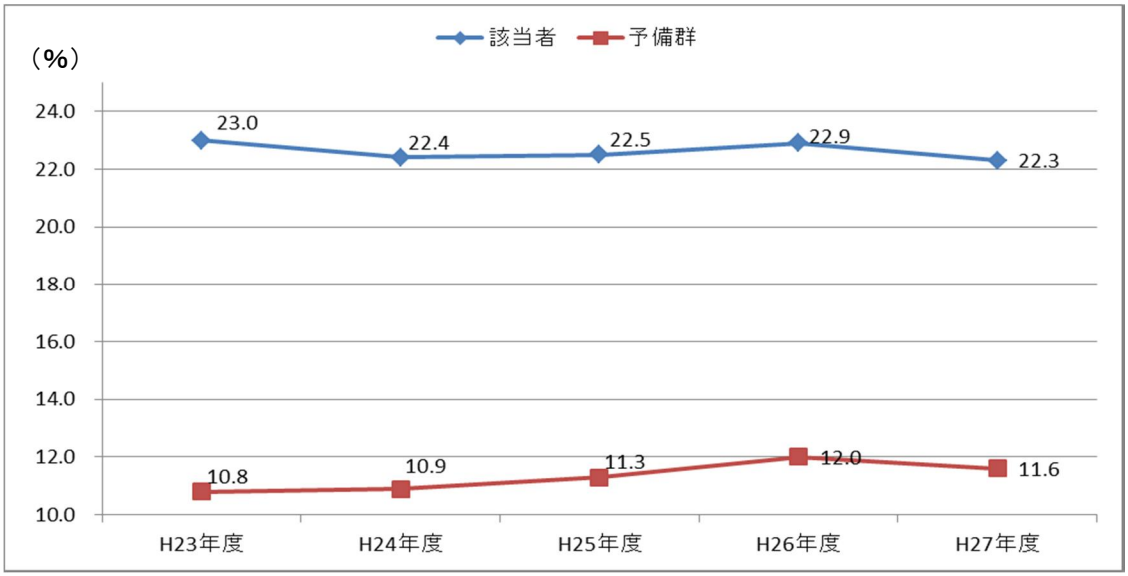
本町の悪性新生物による死因別死亡割合は、愛知県と比較して男性では食道がん、女性では膵（すい）がんの割合が高くなっている。

【メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少について】

平成２３年度策定時にはＫＤＢや健康かるての導入前であったため、今回の中間評価の算出方法とそろえ、平成２３年度の値を修正する。

また、本項目の目標値「２５％減少」は国を参考としているが、出現率を計算するにあたって人口や性別・年齢階層別出現割合を使用するため、年度によって目標となる数値が異なってくる。そこで、今後評価がしやすいように、２５％減少に相当する概算値を今後の目標値とし、評価していくこととする。

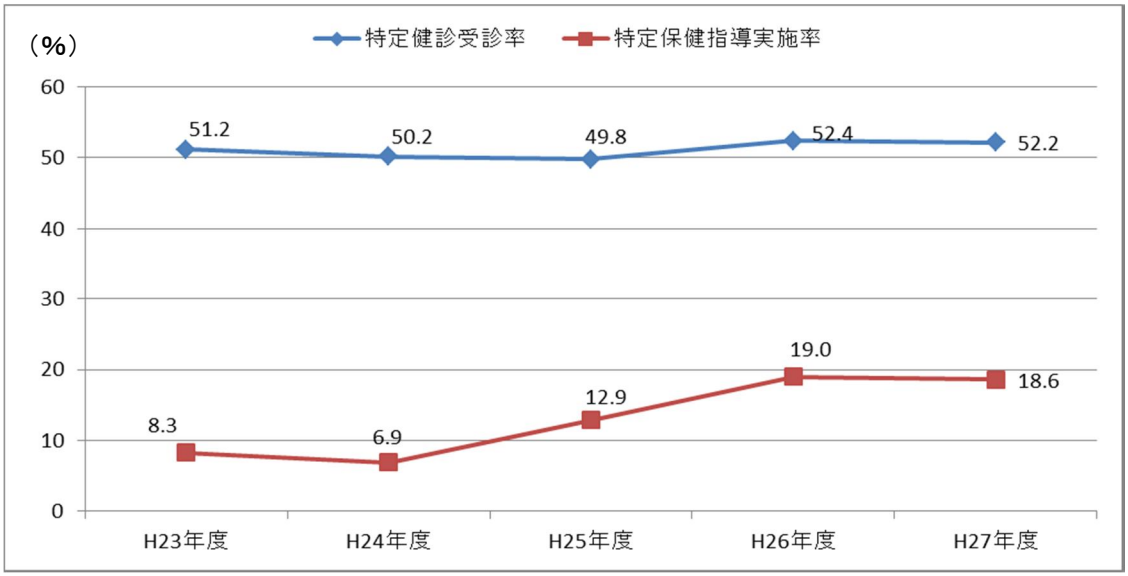
【メタボリックシンドローム該当者及び予備群の年次推移】



資料：ＫＤＢ

平成２３年度以降のメタボリックシンドローム該当者の年次推移は、緩やかに増減している。また予備群の年次推移は、緩やかに増加している。

【特定健診受診率・特定保健指導実施率の年次推移】



資料：ＫＤＢ

平成２３年度以降の特定健診受診率の年次推移は横ばいになっており、特定保健指導実施率においては平成２４年度に減少し、その後増加している。

【健診を受けていない理由について】

	有効回答数（件）	健康に自信がある	面倒くさい	忙しい	何か指摘されるのが怖い	健診そのものが苦痛
男性 20 歳代	6	16.7%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%
30 歳代	5	20.0%	20.0%	20.0%	0.0%	0.0%
40 歳代	2	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50 歳代	7	0.0%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%
60 歳代	17	0.0%	11.8%	5.9%	0.0%	17.6%
70 歳代以上	9	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	11.1%
女性 20 歳代	13	0.0%	46.2%	23.1%	23.1%	0.0%
30 歳代	21	4.8%	28.6%	42.9%	0.0%	0.0%
40 歳代	13	7.7%	30.8%	30.8%	15.4%	7.7%
50 歳代	13	15.4%	30.8%	30.8%	0.0%	15.4%
60 歳代	20	20.0%	25.0%	5.0%	30.0%	30.0%
70 歳代以上	13	7.7%	15.4%	0.0%	7.7%	7.7%

	必要に感じない	受診できる機会がない	受診できる場所が分からない	通院中	その他	無回答
男性 20 歳代	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%
30 歳代	0.0%	40.0%	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%
40 歳代	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%
50 歳代	0.0%	28.6%	0.0%	28.6%	14.3%	0.0%
60 歳代	17.6%	23.5%	0.0%	47.1%	0.0%	0.0%
70 歳代以上	11.1%	11.1%	0.0%	100.0%	22.2%	0.0%
女性 20 歳代	23.1%	15.4%	7.7%	7.7%	23.1%	0.0%
30 歳代	4.8%	47.6%	4.8%	0.0%	23.8%	0.0%
40 歳代	0.0%	46.2%	0.0%	7.7%	7.7%	0.0%
50 歳代	15.4%	15.4%	0.0%	15.4%	0.0%	0.0%
60 歳代	35.0%	5.0%	0.0%	15.0%	0.0%	5.0%
70 歳代以上	7.7%	7.7%	0.0%	30.8%	15.4%	7.7%

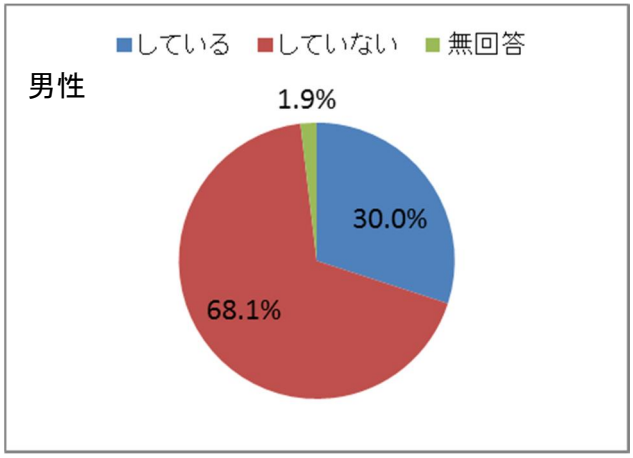
資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

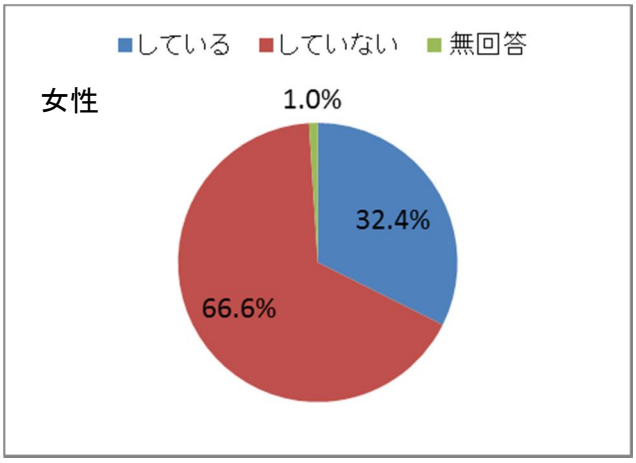
「過去１年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けていない理由」は、２０歳代男女において「面倒くさい」と回答した人の割合が約５割と高くなっている。また、３０～４０歳代においては「受診できる機会がない」と回答した人の割合が高くなっている。

今後は企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、町実施のがん検診やあおば健診の周知をしていく必要があると考えられる。

【趣味の会、スポーツの会に参加している住民の割合について】

性別





年代別

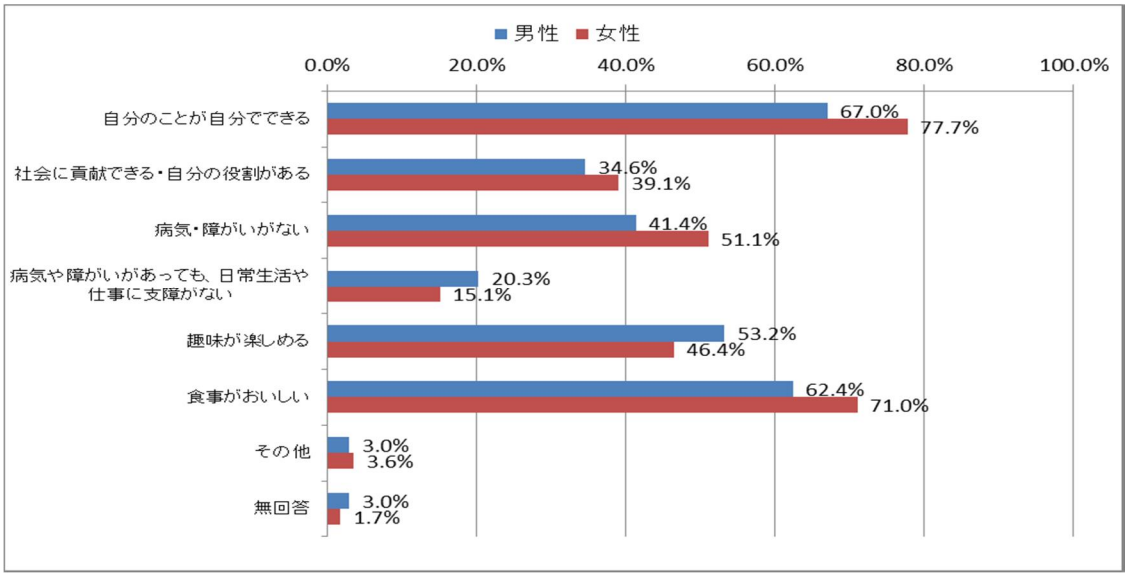
	している	していない	無回答
男性	30.0%	68.1%	1.9%
20 歳代	13.6%	86.4%	0.0%
30 歳代	17.9%	82.1%	0.0%
40 歳代	30.4%	69.6%	0.0%
50 歳代	25.0%	72.2%	2.8%
60 歳代	29.2%	68.3%	2.5%
70 歳代以上	48.6%	48.6%	2.9%
女性	32.4%	66.6%	1.1%
20 歳代	12.9%	83.9%	3.2%
30 歳代	17.6%	82.4%	0.0%
40 歳代	26.3%	73.7%	0.0%
50 歳代	27.8%	70.9%	1.3%
60 歳代	45.0%	53.7%	1.3%
70 歳代以上	40.3%	58.3%	1.4%
総計	31.3%	67.3%	1.4%

資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

趣味の会、スポーツの会に参加している住民の割合は、平成２３年度において「健康とくらしの調査」の結果を用いた。そのため、２０～６４歳が未把握となっていたため、今回アンケート調査を実施した。

男女とも趣味の会、スポーツの会に参加している人の割合は、約３割と低くなっている。特に２０～３０歳代の参加割合が低く、７０歳代以上で高くなっている。

【健康だと感じるのは、どんなときか？について】



資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたが健康だと感じるのは、どんなときですか？」という設問に対して、男女とも「自分のことが自分でできる」、「食事がおいしい」と回答した人の割合が高くなっている。

また次いで多いのが、男性では「趣味が楽しめる」なのに対して、女性では「病気・障がいがない」であり、性別の差もみられる。

課題

❶ メタボリックシンドローム予備群の出現率の増加

メタボリックシンドローム予備群の出現率は増加している。

平成２６年度ＫＤＢより、武豊町のメタボリックシンドローム該当者は愛知県下ワースト４位、腹囲基準値を超えた人はワースト１位という結果であった。

この結果を受け『めざせ！！脱！太っ腹な武豊』をスローガンに、平成２８年度より黄色いリボン事業を新規に立ち上げ、住民への周知・啓発を実施したり、地区特性を活かした健康教育の実践に取り組んでいる。

また、武豊町の現状や課題を周知するとともに、健診等の情報提供を推進していくために、企業等と連携を図る必要があると考える。

❷ がん検診受診率の低迷

本町は保健センターでがん検診を実施しており、定員充足率はほぼ１００％である。また、子宮頸がん検診、乳がん検診、大腸がん検診においては対象年齢に無料クーポンを送付している。

今後もがん検診の周知やクーポン事業を実施していくとともに、受診率向上のための取り組みを企業等との連携も含めて検討していく必要があると考える。

課題解決のための方向性

❶ メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率の減少

- ○ メタボリックシンドロームの腹囲基準値（男性８５ｃｍ以上、女性９０ｃｍ以上）を知っている人の増加
- ○ 年１回は必ず健診を受ける、もしくは自分の健康状態を把握する人の増加
- ○ 健診結果を振り返り、健康に配慮した生活の実践と継続に取り組む人の増加

❷ がん検診受診率の向上

- ○ がん検診の必要性を理解し、受診したいと思う人の増加
- ○ 定期的にがん検診を受ける人の増加

実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種がん検診	胃がん検診、大腸がん検診、肺がん検診、子宮頸がん検診、乳がん検診、前立腺がん検診を実施する。子宮頸がん検診、乳がん検診、大腸がん検診については、がん検診推進事業に基づいて無料クーポン券を送付する。 また、各がん検診の要精密検査となった人に対し、受診勧奨を個別に実施する。	健康課
2	要精密検査未受診者への受診勧奨	各がん検診の要精密検査となった人で未受診者に対し、受診勧奨を個別に実施する。	健康課
3	肝炎ウイルス検診	肝炎ウイルス検診事業に基づいて実施する。	健康課
4	あおば健診	18 歳から 39 歳で健診を受ける機会のない住民の健診を実施する。	健康課
5	特定健診	40 歳から 74 歳の国民健康被保険者の健診を実施する。	保険医療課 健康課
6	特定健診未受診者勧奨	特定健診の未受診者を把握し、受診に向けた働きかけを実施する。特に未受診者の多い地域への啓発活動を実施する。	保険医療課 健康課
7	後期高齢健康診査	後期高齢者医療被保険者の健診を実施する。	保険医療課 健康課
8	特定保健指導 （動機づけ支援・積極的支援）	健診結果に応じて、生活習慣病予防のための保健指導を実施する。	保険医療課 健康課
9	『めざせ！！脱！太っ腹な武豊』 幸せの黄色いリボン事業	町内協力機関や町内イベント、あおば健診等において男性 85cm、女性 90cmのリボンを設置または配布し、メタボリックシンドロームの周知や腹囲の日常的意識の向上に努める。	保険医療課 健康課
10	健康マイレージ事業	住民の生涯を通じた健康づくり活動を支援するためにチャレンジシートを配布し、満了者に対して「あいち健康づくり応援カード！～MyCa（まいか）～」を交付する。	健康課
11	重症化予防対策	健康課題がある者や適正受診ができていない場合に保健指導等を実施する。	健康課 保険医療課
12	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、がん検診の勧奨や健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
13	健康相談	保健師による健康相談を実施する。	健康課
14	各種健康教育・啓発事業	健康づくりに関する様々な講座・教室を開催し、住民の健康意識を高め、正しい知識を普及する。また、広報たけとよやホームページ等において情報提供を実施する。	生涯学習課 健康課 スポーツ課
15	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
16	高齢者（B類）予防接種事業	65 歳以上の住民に対して、高齢者肺炎球菌及び高齢者インフルエンザの予防接種を実施することで、住民の健康を維持する。	健康課

No	事業名	事業内容	担当課
17	福祉まつり	健康づくりの啓発や測定（骨粗しょう症検診等）を実施する。また、保健センターや地域包括支援センターの紹介を実施する。	健康課
18	保健推進員養成講座	地域における健康づくり実践活動の中核となる推進員を養成する。	健康課
19	保健推進員連絡会との協働事業	地域における健康に関する知識の普及と実践、健康課事業への協力を実施する。	健康課
20	保育園健康診断	保育園児の健康診断を実施する。	子育て支援課
21	学校健康診断	小中学生の健康診断を実施する。	学校教育課
22	憩いのサロン	65 歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
23	生活元気度調査	介護保険認定者以外の 70 歳の人へ基本チェックリストを郵送する。生活機能低下の該当者に、介護予防事業の勧奨を実施する。	福祉課 地域包括支援センター

新規指標

小学校地区の受診率

理由：武豊町国民健康保険データヘルス計画（以下、データヘルス計画）等において、小学校地区別の健康課題の把握や対策を実施しているため。

【新規指標の資料等】

資料	担当
健康かるて	健康課

今後の目標

指標	策定値 （H23 年度）	中間評価 （H27 年度）	目標値
① 主観的健康感の向上			
自分自身が健康だと思う人の割合	75.3%	77.4%	80.0%
② がん検診の受診率の向上			
がん検診の受診率			
胃がん	3.1%	3.5%	40.0%
大腸がん	5.9%	7.8%	40.0%
肺がん	10.3%	10.4%	40.0%
子宮頸がん	6.3%	6.6%	50.0%
乳がん	7.5%	8.8%	50.0%
③ メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少			
（特定健診受診者のうち）			
メタボリックシンドローム該当者及び予備群の出現率			
該当者	23.0%	22.3%	16.0%
予備群	10.8%	11.6%	8.0%
④ 特定健診・特定保健指導の実施率の向上			
（国民健康保険被保険者のうち）			
特定健診の受診率	51.2%	52.2%	60.0%
特定保健指導の実施率	8.3%	18.6%	60.0%
最低受診区の受診率	38.9%	47.8%	50.0%
小学校地区の受診率			
武豊小学校	51.6%	55.3%	60.0%
衣浦小学校	52.8%	53.9%	60.0%
緑丘小学校	49.1%	50.9%	60.0%
冨貴小学校	50.5% （H23 年度は概算値）	54.7%	60.0%
⑤ 地域のつながりの強化			
この地域で安心して暮らしていると思う住民の割合	未把握	92.7%	100.0%
⑥ 趣味の会、スポーツの会に参加している住民の増加			
趣味の会、スポーツの会に参加している住民の割合	20～64 歳　未把握 65 歳以上　43.1% （H22 年度）	31.3%	45.0%
⑦「憩いのサロン」拠点数の増加			
憩いのサロン拠点数	8 か所	13 か所	14 か所

（２）栄養・食生活

めざす姿　**食べ方変えたら、からだも変わる。手に入れよう！元気の食習慣**

方向性

食事量やバランスについて心がけ、自分自身の適正体重を保ち、楽しんで食べる習慣を持つことをめざす。

【個人・家庭の取組】
- ○　１日３食、栄養バランスのよい食事を心がける
- ○　家族で一緒に食事を楽しむ
- ○　適正体重を保つ
- ○　栄養成分表示を参考にする

【地域・職場の取組】
- ○　食について知る機会を設ける
- ○　友人、地域の人たちと一緒に食事を楽しむ

【行政の取組】
- ○　バランスのよい食事や間食のとり方などの情報提供、普及啓発
- ○　ターゲットやテーマを明確化した参加しやすい栄養教室の開催
- ○　乳幼児期の保護者に対し、小さい頃から望ましい食習慣について啓発し、食の関心・意識を高める
- ○　保育園・学校を通じた規則正しい食生活や栄養バランスについての指導と食育の啓発
- ○　高齢者への低栄養予防の啓発
- ○　地域のボランティアと協働し、食に関する情報を発信し、地域の食文化を啓発

指標の達成状況

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
① 肥満（BMI 25 以上）、やせ（BMI 18.5 未満）の減少				
20～60 歳代男性の肥満者の割合	29.2%	31.8%	減少	D
40～60 歳代女性の肥満者の割合	16.6%	18.8%	減少	D
20 歳代女性のやせの人の割合	23.5%	25.8%	減少	D
② 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が、ほぼ毎日の人の増加				
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が、ほぼ毎日の人の割合	未把握	53.4%	50.0%	A
③ 野菜の摂取量の増加				
1 日に食べる野菜のおかずが 5 皿分以上の人の割合	未把握	7.3%	100.0%	E
④ カロリーなどの栄養成分表示を参考にしている人の増加				
カロリーなどの栄養成分表示を参考にしている人の割合	13.0%	31.9%	増加	A
⑤ よくかんで、毎食の食事時間 15 分以上を心がける人の増加				
よくかんで、毎食の食事時間 15 分以上を心がける人の割合	27.0%	49.1%	40.0%	A
⑥ 楽しく食事をしている人の増加				
楽しく食事をしている人の割合	14.9%	74.0%	30.0%	A
⑦ 腹八分目を心がけている人の増加				
腹八分目を心がけている人の割合	31.8%	58.9%	50.0%	A
⑧ 朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの増加				
朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの割合				
小学 4～6 年生	未把握	93.4%	増加	E
⑨ 肥満傾向にある子どもの減少				
中等度・高度肥満傾向児の割合				
3 歳児	1.0%	0.2%	減少	B
小学 4～6 年生	未把握	8.2%（H26 年度）	減少	E
⑩ 共食の増加				
食事をひとりで食べる子どもの割合の減少				
小学 4～6 年生　朝食	未把握	22.8%	減少	E
夕食	未把握	5.3%	減少	E

【各指標項目の資料等】

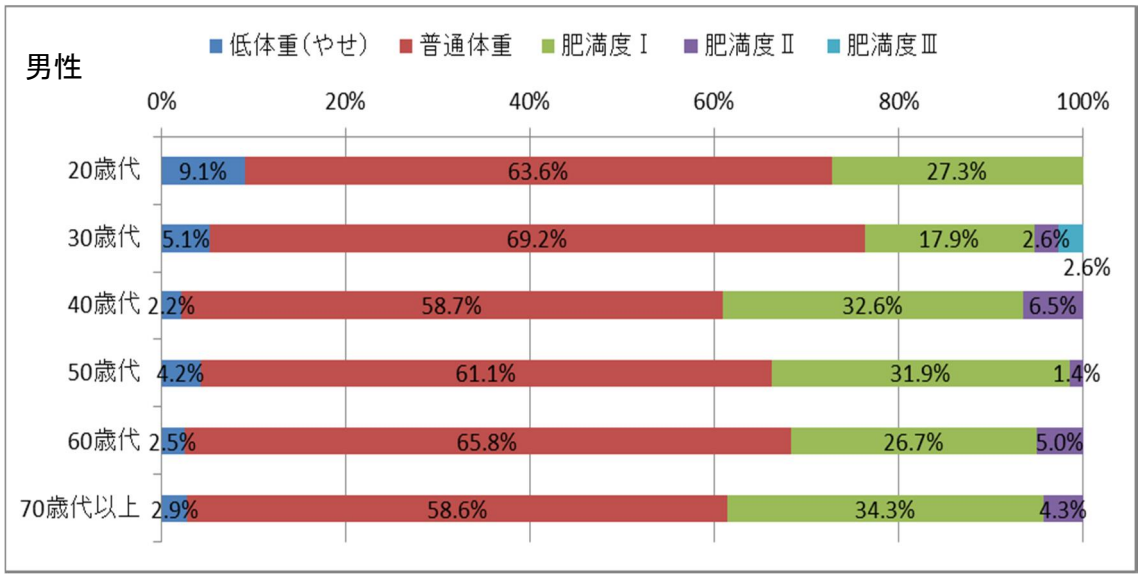
項目	資料	担当
①②③④⑤⑥⑦⑧⑩	健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価アンケート	健康課 学校教育課
⑨	平成２７年度母子健康診査マニュアル集計結果 （「ふとりすぎ」に該当する３歳児）	健康課
	学校健診の状況 （データヘルス計画より肥満度２０％以上の児童）	

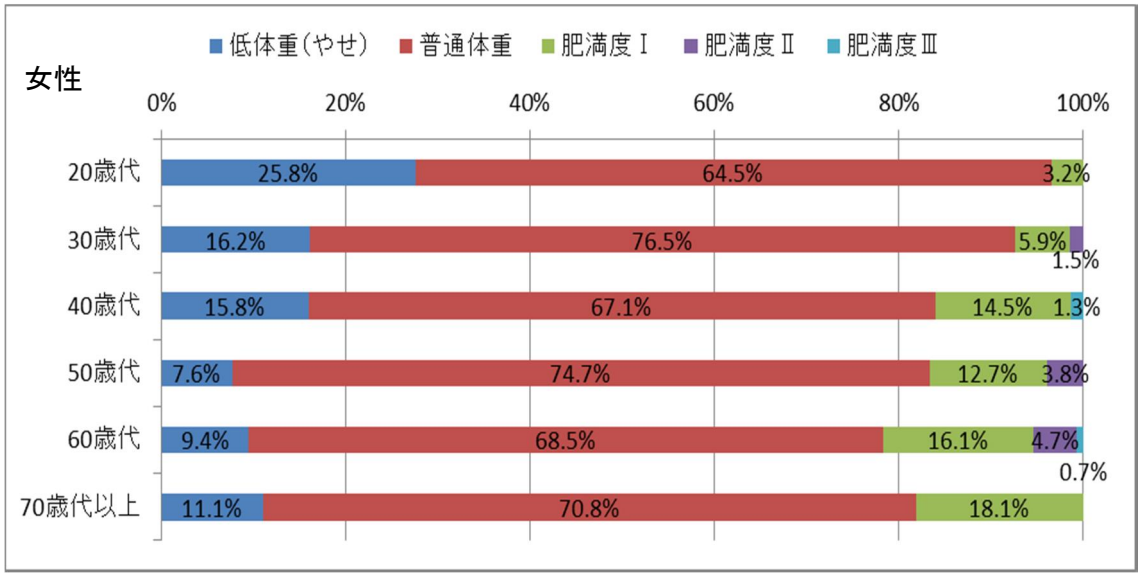
削除・変更した指標

変更前		変更後
１日の野菜摂取量の平均	⇒	１日に食べる野菜のおかずが５皿分以上の人の割合
理由：アンケート調査で回答者が回答しやすく、今後の啓発においても住民が実践しやすくするため。		
小学５年生	⇒	小学４～６年生
理由：小学生の項目については今後の事業展開を考慮してより多くのデータを得るために、小学４～６年生を対象とした独自のアンケートを実施したため。		

現状・考察

【肥満（ＢＭＩ２５．０以上）とやせ（ＢＭＩ１８．５未満の割合）】



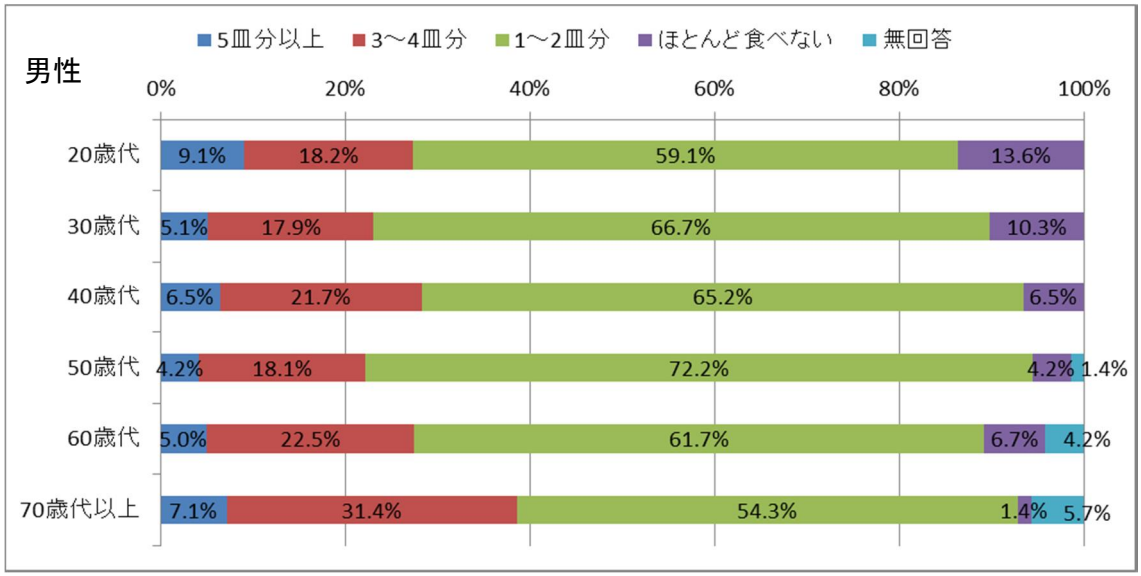


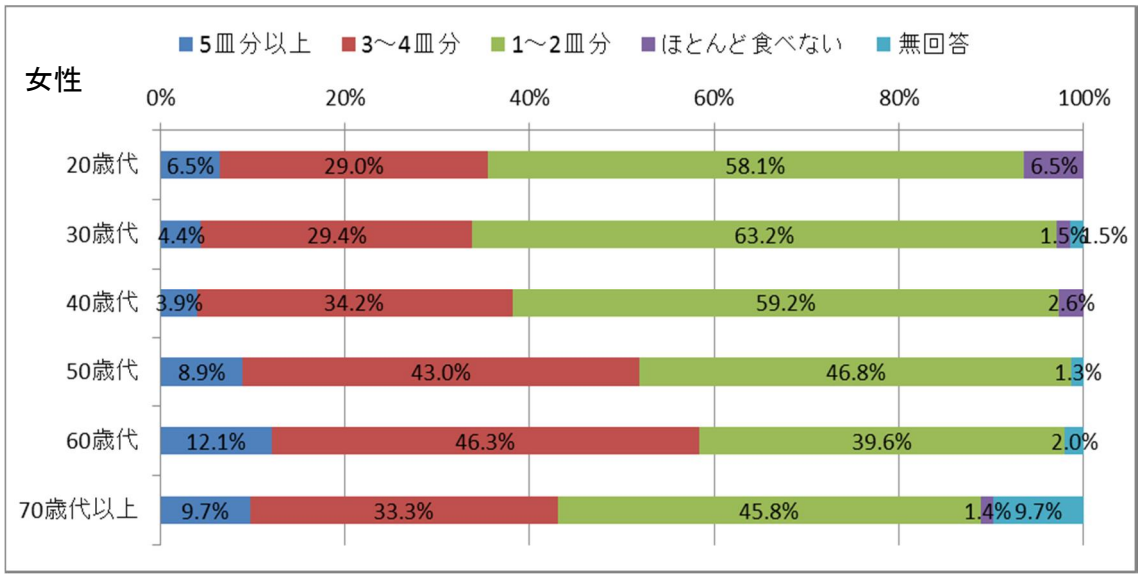
資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

全ての年代において男性では肥満の割合が高く、女性ではやせの割合が高くなっている。特に２０歳代では、男性の約３割が肥満であるのに対し、女性では約３割がやせであり、明らかな性別の差がみられる。また、男女とも共通して４０歳代で肥満度Ⅰの割合が増加している。

２０歳代女性のやせの割合は、前回評価時より増加している。また、平成２７年度国民健康・栄養調査では、２０歳代の女性のやせの割合は２２．３％であり、本町の割合の方が高くなっている。

【１日に食べる野菜のおかずについて】





資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

野菜の摂取量の増加の指標において、策定時は「１日の野菜摂取量の平均値」であったが、アンケート調査で回答が困難であることや正確な把握が難しいことが考えられる。そこで、目標値である「３５０ｇ」に相当する「野菜のおかず５皿分以上」を新たな目標とし、評価する。

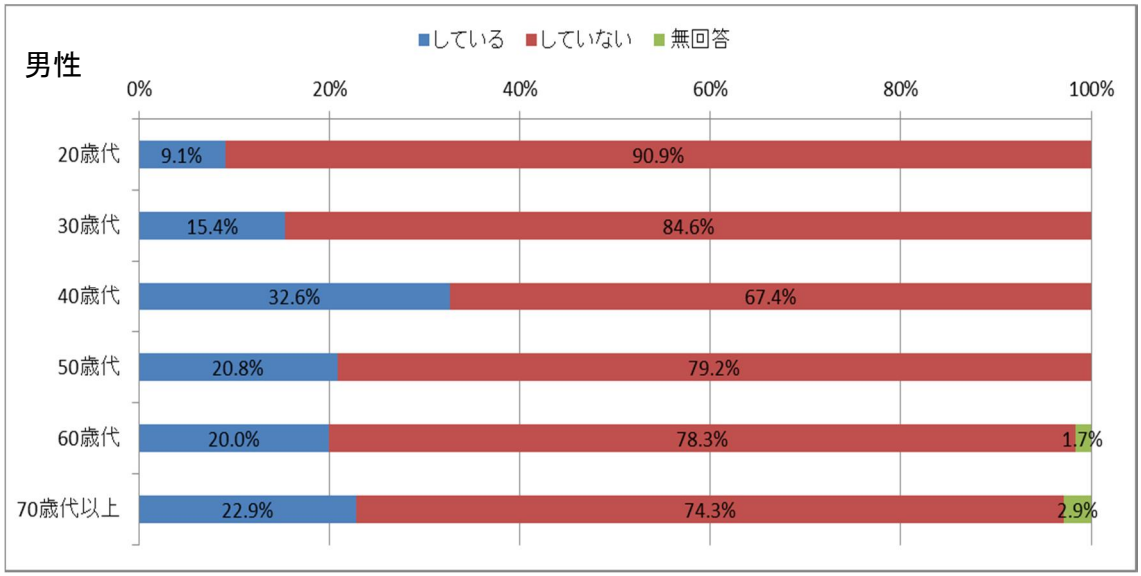
「あなたは野菜のおかずを１日何皿分食べますか？」という設問に対して、男女とも「５皿分以上」と回答した人の割合は、全ての年代で低くなっている。また、どの年代においても男性より女性の方が野菜を多く食べている傾向がみられる。

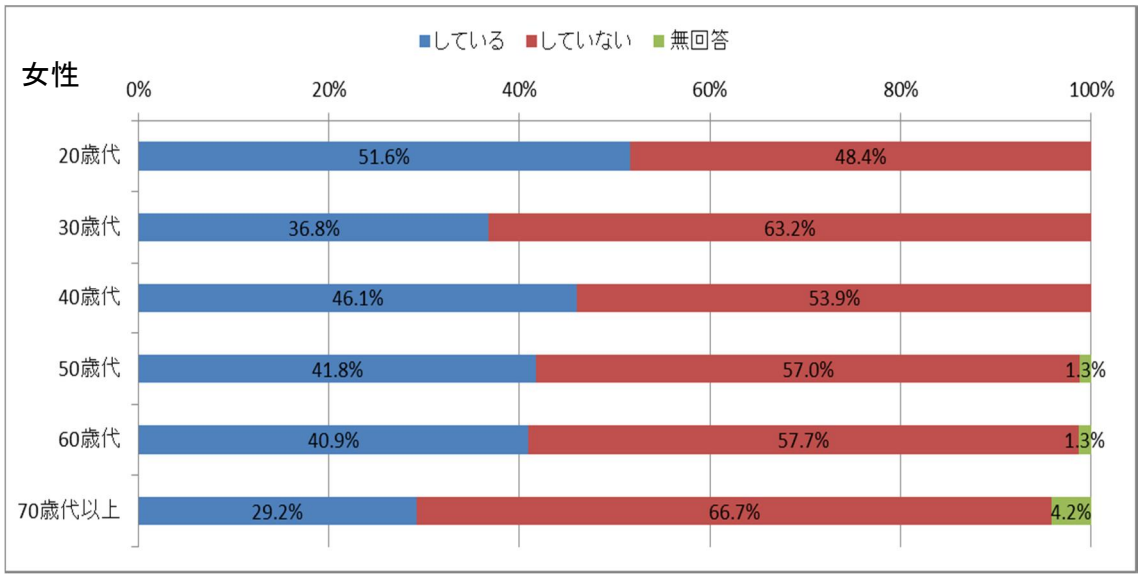
女性では５０～６０歳代において野菜を食べる人の割合が高くなっている。男性では年代の差はあまり見られないが、２０歳代で「ほとんど食べない」と回答した人の割合が１３．６％と最も高くなっている。今後は特に男性及び若年層に対して、野菜摂取の啓発をしていく必要があると考える。

【指標④～⑦について】

前回評価時と比較して、全ての指標において割合が高くなっている。これは、アンケート回答者が回答しやすいような設問方法に変更したことが影響しているのではないかと考えられる。次回の中間評価では、今回と同様の設問でアンケートを実施し、経時変化をみていく必要がある。

【栄養成分表示を参考にしている人について】





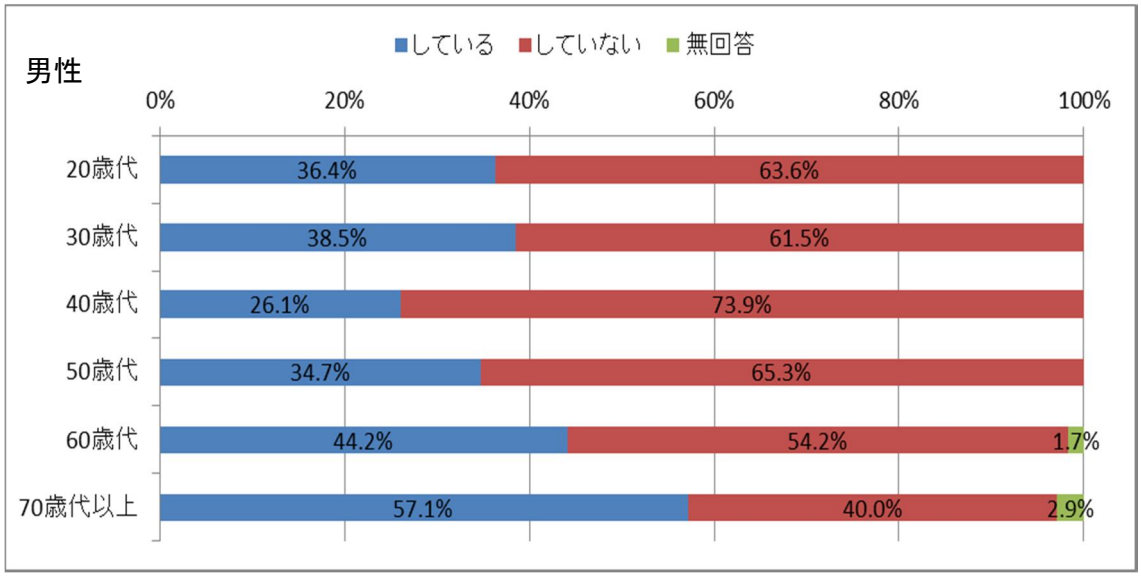
資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

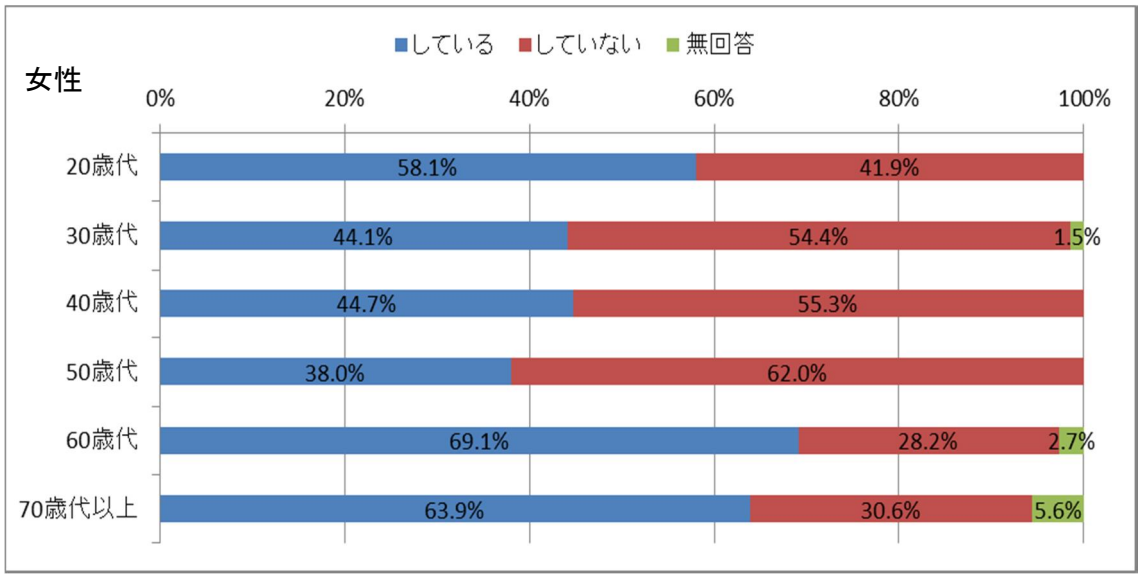
「あなたは外食や買い物のとき、カロリーなどの栄養成分表示を参考にしていますか？」という設問に対して、男性より女性の方が「している」と回答した人の割合が高くなっている。

また２０歳代において、女性は５割以上が「している」と回答しているのに対し、男性では１割未満と非常に低くなっており、明らかな性別の差がみられる。

栄養成分表示は、カロリーだけではなく塩分量の把握にも非常に役立つため、生活習慣病予防の手段の一つとして活用していくことは重要であると考えられる。

【食事時間について】





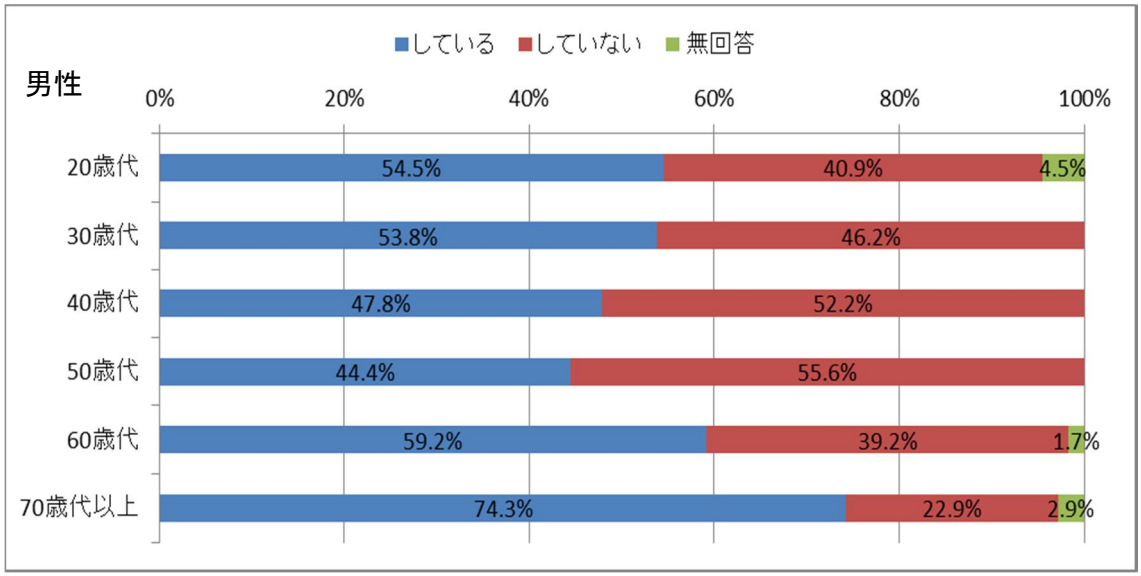
資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

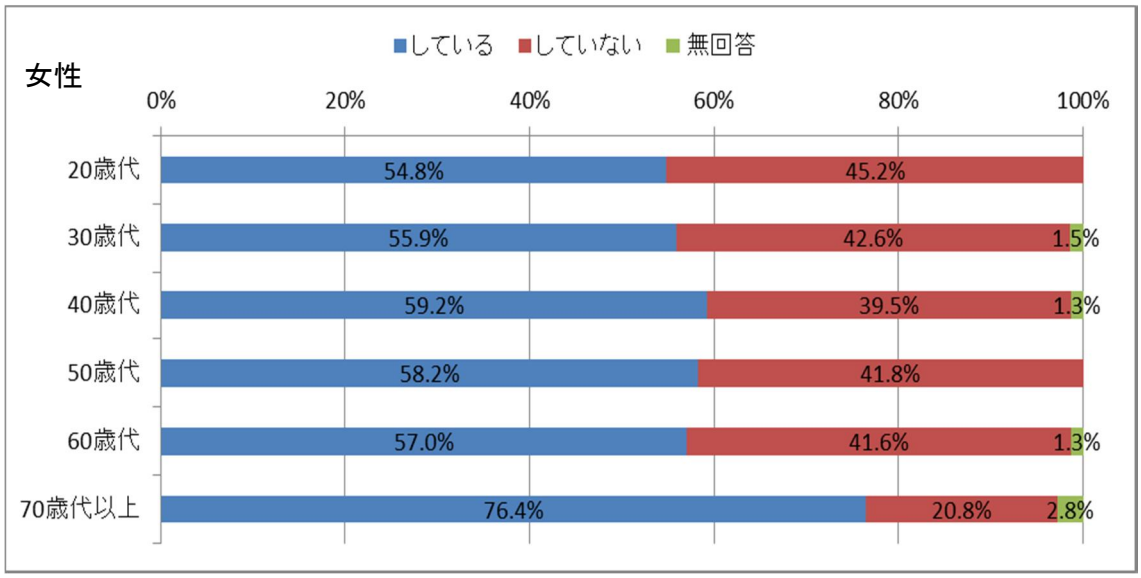
「あなたはよく噛んで、毎食の食事時間を１５分以上にしていますか？」という設問に対して、男性より女性の方が「している」と回答した人の割合が高くなっている。また、年代で見ると男女とも６０～７０歳代以上において「している」と回答した人の割合が高くなっている。

食事時間と肥満の関係は多数の研究からも示唆されており、４０歳代男性の早食い傾向と４０歳代男性における肥満者割合の増加（【肥満（ＢＭＩ２５．０以上）とやせ（ＢＭＩ１８．５未満の割合)】で述べた通り）は関連があるのではないかと考えられる。

また、３０～５０歳代女性で「している」人が減少するのは、子育てや家事等により時間の確保が難しいからではないかと考えられる。

【腹八分目について】





資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたは食事をするとき、腹八分目にしていますか？」という設問に対して、７０歳代以上において「している」と回答した人の割合が、７割以上と高くなっている。

また４０～５０歳代男性では５割を下回っており、食事時間と合わせて肥満者割合の増加に影響しているのではないかと考えられる。

【肥満傾向にある子どもの割合について】

３歳児中等度・高度肥満傾向児において、母子健康診査マニュアル集計結果を確認したところ、平成２３年度の数値に誤りがあったため、今回の中間評価において適切な数値に修正する。

平成２７年度の３歳児中等度・高度肥満傾向児は０．２％とかなり低くなっている。

【高血圧者の割合について】

本町では血圧有所見者の割合が高く、要介護者の有病状況から高血圧起因の疾病が県や同規模市町村と比較して高くなっている（ＫＤＢより）。また、医療費の半数以上が高血圧に関連する疾病であることが分かっており、データヘルス計画においても重要な課題として位置づけられている。

そこで、本計画においても「高血圧の減少」を新規指標として掲げ、取り組み・評価をしていくこととする。

課題

❶ 肥満者割合の増加

４０～５０歳代男性において、腹八分目を心がけている人の割合が低くなっていることから、今後は企業と連携し、働く世代への健康教育を進めていく必要があると考える。

また、将来の担い手となる子どもへの健康教育も重要であり、今後取り組むべき課題の一つであると考える。働く世代は子育て世代でもあるため、子どもへの健康教育は間接的なアプローチとなるとともに、子どもを通じた健康教育は非常に有効な方法だと考える。そのためにも、今後は今まで以上に小中学校と連携を図る必要があると考えられる。

❷ 野菜摂取不足

１日の野菜摂取量の目安は３５０ｇ以上であり、それに該当する「野菜のおかず５皿分以上」の人の割合は、７．３％とかなり低くなっている。逆に「１～２皿分」と回答した人の割合が５割以上を占めており、「１～２皿分」を「５皿分以上に」増やすのは非常に困難であると考えられる。

そこで、今の食事より１皿多く食べることを啓発し、まずは住民が取り組みやすく実現可能と考えられる、「１日に食べる野菜のおかずが３皿分以上の人の割合が５０．０％」を目標とし、野菜摂取増加に取り組む。

❸ 高血圧者割合が高い

現状・考察で述べた通り、本町は高血圧者の割合が高いことが大きな課題である。そこで新規指標として掲げる「高血圧の減少」に血圧有所見率を位置づけ、取り組みの評価を実施していく。

また高血圧の原因は複数挙げられ、それらから受ける影響は個人差も大きいが、最も身近で血圧降下の期待も高い「減塩」に取り組むことが重要であると考える。そこで住民に対して、塩分への意識づけを進めていく必要があると考えられる。

「減塩」は習慣が大きく関係し、長期的に取り組む必要がある。さらに、高血圧に関連する疾病や薬が必要になる前から取り組むことが重要であることから、壮年期のみならず若年期へのアプローチも必要であると考える。

課題解決のための方向性

❶ 肥満者割合の減少

- ○　自分の適正体重を知っている人の増加
- ○　よくかんで、毎食の食事時間１５分以上を心がける人の増加
- ○　腹八分目を心がけている人の増加

❷ 野菜摂取の増加

- ○　１日の野菜摂取の目安量を知っている人の増加
- ○　自身の野菜摂取量を把握している人の増加
- ○　野菜のおかずを今より１皿多く食べる人の増加

❸ 高血圧者割合の減少

- ○　１日の塩分の目安量を知っている人の増加
- ○　栄養成分表示を参考にしている人の増加

実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	栄養相談	管理栄養士による個別栄養相談を実施する。	健康課
2	各種健康教育・啓発事業	あおば健診、憩いのサロン、福祉まつり等において、講話や情報提供を実施する。	健康課
3	赤ちゃん教室 （離乳食編）	管理栄養士による離乳食の説明と試食を実施する。	健康課
4	7か月児すくすく相談	管理栄養士による離乳食についての講話、個別栄養相談を実施する。	健康課
5	特定保健指導 （動機づけ支援・積極的支援）	健診結果に応じて、生活習慣病予防のための栄養指導を実施する。 また、「元気！からだの学校」において“食べレター”による情報提供を実施する。	保険医療課 健康課
6	重症化予防対策	ハイリスク者に対して本町の大きな課題である高血圧を中心に、重症化予防のための具体的な健康教育を実施する。	健康課 保険医療課
7	フレッシュパパママ教室 （しょくじ編）	妊娠中の食事や、非妊娠時の食生活について、管理栄養士の講話と試食を実施する。	健康課
8	食生活改善推進員養成講座	地域における食生活改善活動を行う推進員を養成する。	健康課
9	食生活改善推進員連絡協議会との協働事業	食の学習会、地域における健康づくりや食育・地産地消推進のための活動を実施する。	健康課
10	企業・全国健康保険協会愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課

No	事業名	事業内容	担当課
11	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
12	食育推進協力店登録事業	食育、健康づくりに関する協力店の登録を県と連携して実施する。	健康課
13	各種料理教室	親子料理教室など様々な世代に向けた調理実習を行い、食に対する関心を高め健康増進を図る。	生涯学習課 健康課 学校給食センター
14	保育園での食育	保育園での野菜の栽培・収穫、調理活動や管理栄養士による食育活動を実施する。	子育て支援課

新規指標

高血圧の減少

理由：本町において高血圧は重要な課題であるため。

【新規指標の資料等】

資料	担当
血圧有所見率※1 ＫＤＢ　帳票「地域の全体像の把握」	保険医療課
自身の味つけが濃いと感じる人の割合※2 国民健康保険　特定健診問診項目	健康課

今後の目標

★はすでに達成し、さらに高くした目標

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値
① 肥満(BMI 25 以上)、やせ(BMI 18.5 未満)の減少			
20～60 歳代男性の肥満者の割合	29.2%	31.8%	28.0%
40～60 歳代女性の肥満者の割合	16.6%	18.8%	15.0%
20 歳代女性のやせの人の割合	23.5%	25.8%	20.0%
② 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が、ほぼ毎日の人の増加			
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が 1 日 2 回以上の日が、ほぼ毎日の人の割合	未把握	53.4%	★65.0%
③ 野菜の摂取量の増加			
1 日に食べる野菜のおかずが 3 皿分以上の人の割合	未把握	38.6%	50.0%
④ カロリーなどの栄養成分表示を参考にしている人の増加			
カロリーなどの栄養成分表示を参考にしている人の割合	13.0%	31.9%	40.0%
⑤ よくかんで、毎食の食事時間 15 分以上を心がける人の増加			
よくかんで、毎食の食事時間 15 分以上を心がける人の割合	27.0%	49.1%	★60.0%
⑥ 楽しく食事をしている人の増加			
楽しく食事をしている人の割合	14.9%	74.0%	★85.0%
⑦ 腹八分目を心がけている人の増加			
腹八分目を心がけている人の割合	31.8%	58.9%	★70.0%
⑧ 朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの増加			
朝・昼・夕の三食を必ず食べることに気をつけて食事をしている子どもの割合			
小学 4～6 年生	未把握	93.4%	100.0%
⑨ 肥満傾向にある子どもの減少			
中等度・高度肥満傾向児の割合			
3 歳児	1.0%	0.2%	減少
小学 4～6 年生	未把握	8.2%（H26 年度）	7.0%
⑩ 共食の増加			
食事をひとりで食べる子どもの割合の減少			
小学 4～6 年生　朝食	未把握	22.8%	15.0%
夕食	未把握	5.3%	2.0%
⑪ 高血圧の減少			
（特定健診受診者のうち）血圧有所見率※1	7.1%（H24 年度）	7.7%	7.0%
自身の味つけが濃いと感じる人の割合※2	11.3%	9.0%	7.0%

（３）運動・身体活動

めざす姿

暮らしの中に“動くクセ”。クセも積もれば運動に！

方向性

生活習慣病予防のためにも、ライフスタイルに合わせて、日ごろから動くクセをつける。

【個人・家庭の取組】
- ○　日々の生活の中で意識的に体を動かす
- ○　自分自身の体力に合った定期的な運動
- ○　スポーツに関する行事への積極的参加
- ○　ロコモティブシンドロームについて認識し、高齢期の運動器維持を心がける

【地域・職場の取組】
- ○　住民同士での健康に関する情報交換や自主的なサークル・団体活動の情報発信
- ○　地域活動を通じて、運動のきっかけづくりに努める
- ○　地域で体を動かす場を設ける

【行政の取組】
- ○　短時間で効果的にできる運動や身体活動を紹介
- ○　健康づくりにおける運動効果を普及・啓発
- ○　地域活動の場や運動できる施設等についての情報提供
- ○　運動の機会の充実
- ○　高齢期の運動教室や介護予防事業等とともに、社会参加・社会貢献活動の促進

指標の達成状況

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
① 日常生活における身体活動の増加				
日常生活において歩行又は同等の身体活動を１日１時間以上実施している人の割合	未把握	44.3%	増加	E
② 運動習慣者の増加				
30 分･週 2 日以上の運動を 1 年以上継続している人の割合	未把握	38.2%	増加	E
③ 運動やスポーツを習慣的にしている子どもの増加				
授業以外で運動やスポーツを週に 3 日以上している子どもの割合 小学 4～6 年生	未把握	70.2%	増加	E
④ ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している住民の増加				
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している住民の割合	未把握	19.3%	80.0%	E
⑤ 高齢者の社会参加の促進				
憩いのサロンスタッフ数※1	194 人	280 人	増加	A
シルバー人材センター会員数※2	292 人	270 人	増加	D

【各指標項目の資料等】

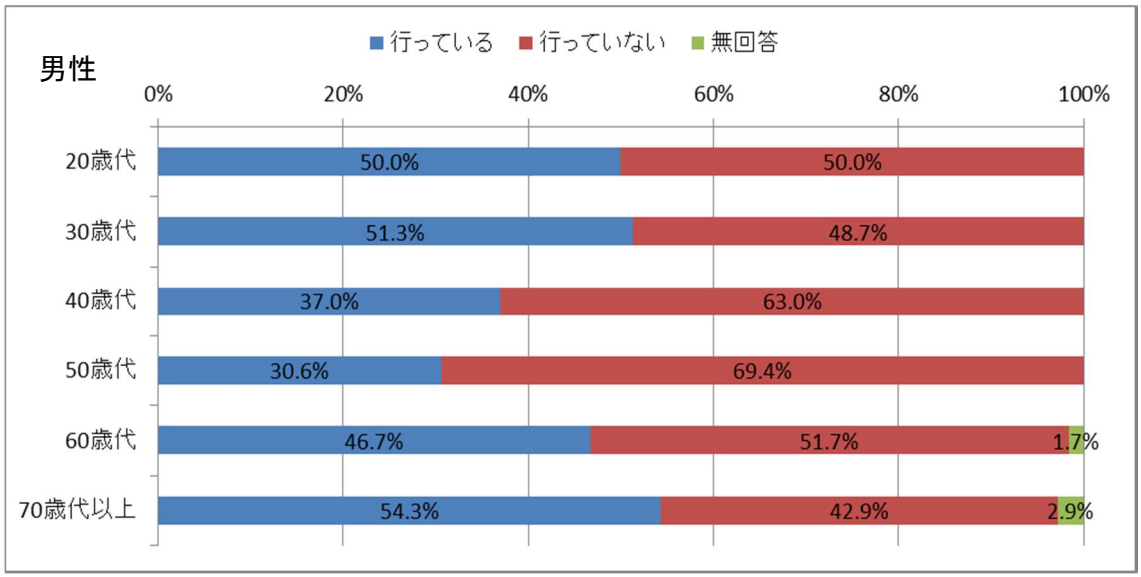
項目	資料	担当
①②③④	健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価アンケート	健康課
⑤※1	庁内資料	地域包括支援センター
⑤※2	町政概要	福祉課

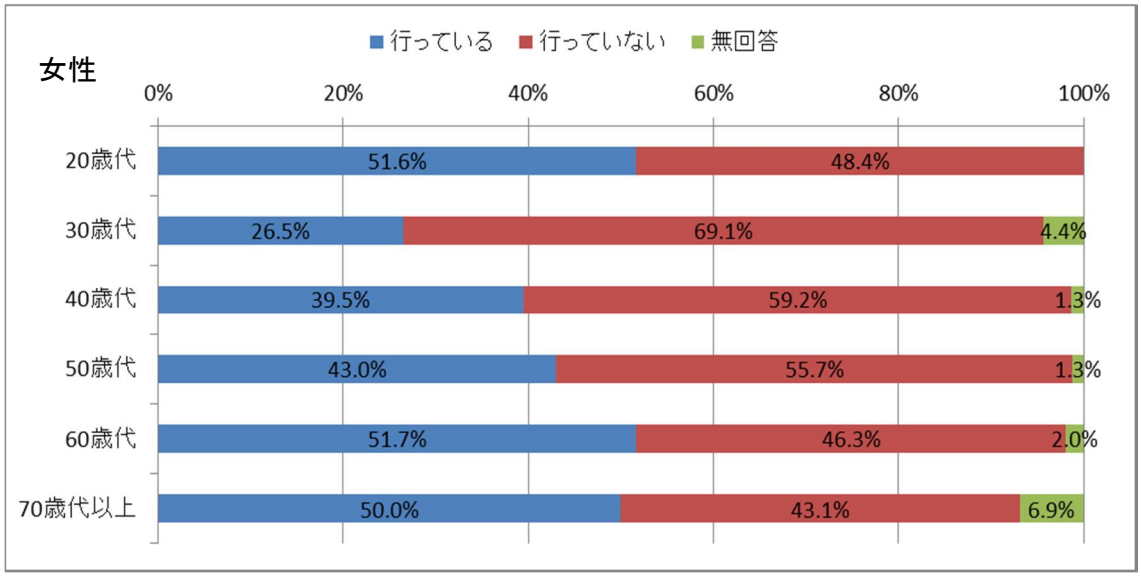
削除・変更した指標

変更前		変更後
就業または何らかの地域活動をしている高齢者の割合	⇒	憩いのサロンスタッフ数 シルバー人材センター会員数
理由：指標が曖昧かつ把握が困難であるため。		
小学５年生	⇒	小学４～６年生
理由：小学生の項目については今後の事業展開を考慮してより多くのデータを得るために、小学４～６年生を対象とした独自のアンケートを実施したため。		

現状・考察

【身体活動について】

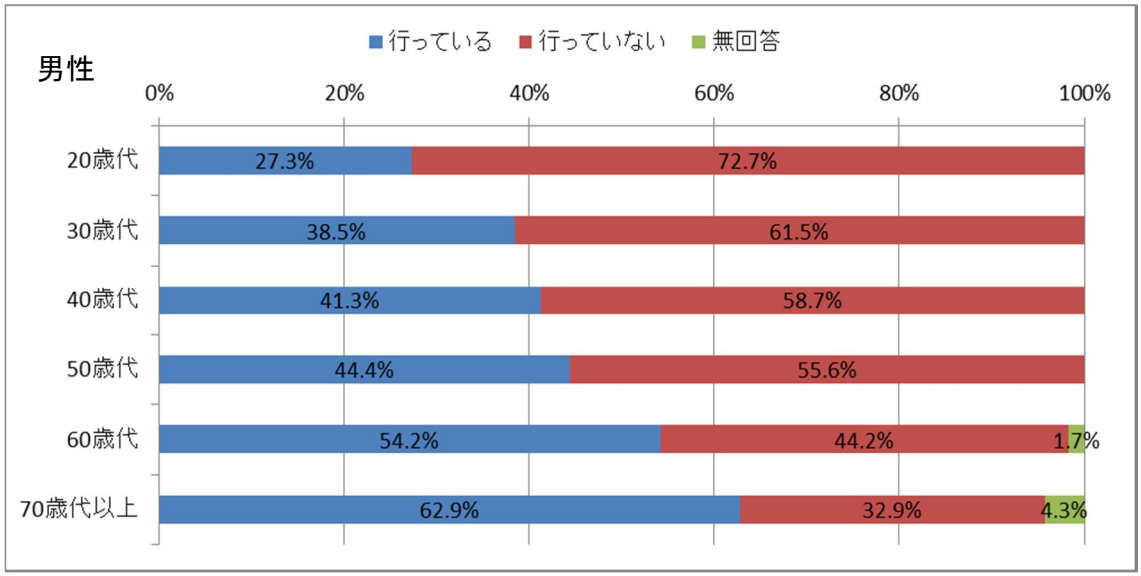


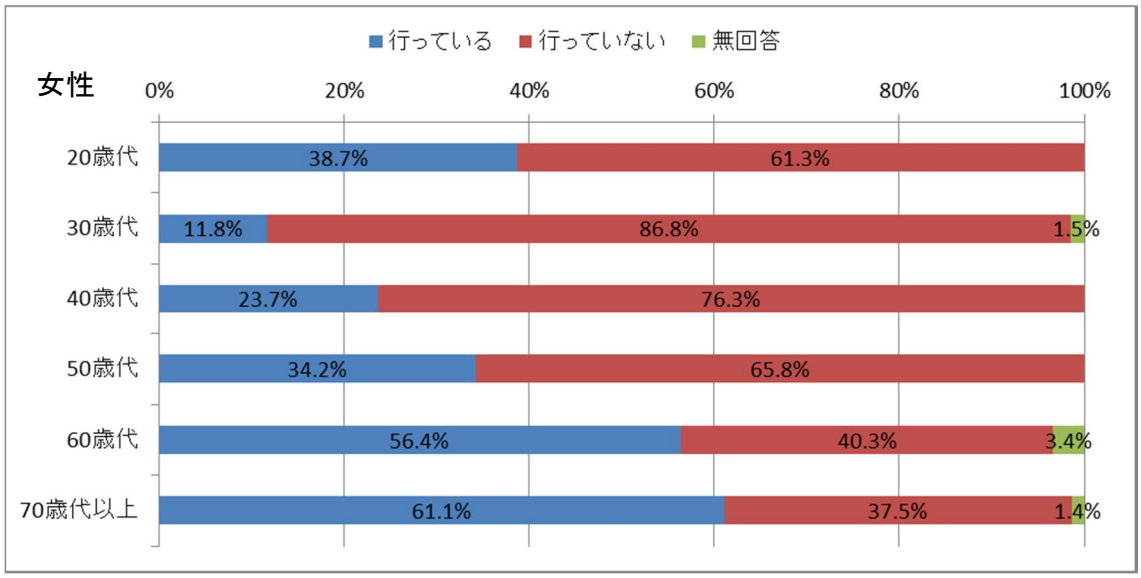


資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたは、日常生活において歩行又は同等の身体活動を、１日１時間以上行っていますか？」という設問に対して、男女とも２０歳代及び６０歳代以上で「行っている」と回答した人の割合が高くなっている。また、男性では５０歳代、女性では３０歳代において「行っていない」と回答した人の割合が高くなっている。

【運動について】



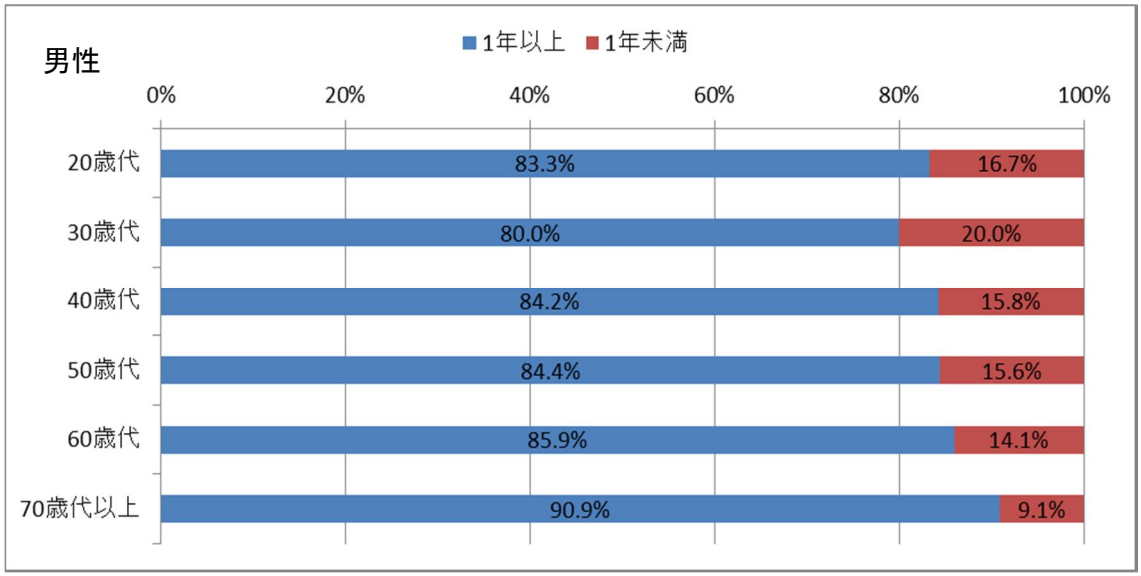


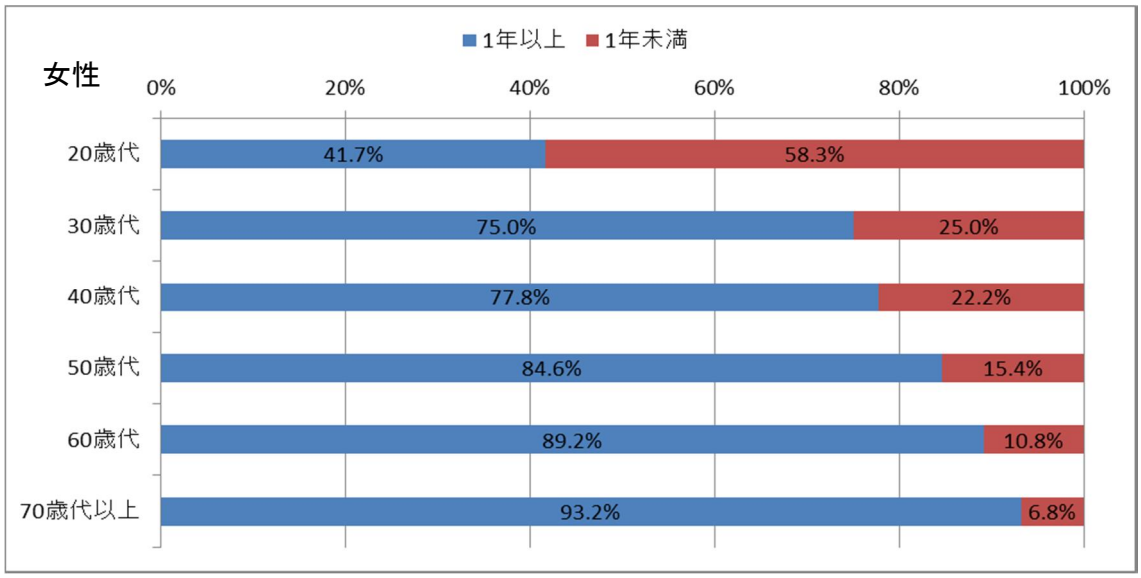
資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたは１回３０分以上の軽く汗をかく運動を、週２日以上行っていますか？」という設問に対して、男女とも６０歳代以上で「行っている」と回答した人の割合が高くなっている。６０歳代以上では定年退職を迎え、時間にゆとりができることにより、運動時間が確保できるのではないかと考えられる。

また、男性では２０歳代、女性では３０歳代において「行っていない」と回答した人の割合が高くなっている。

【運動の継続について】





資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

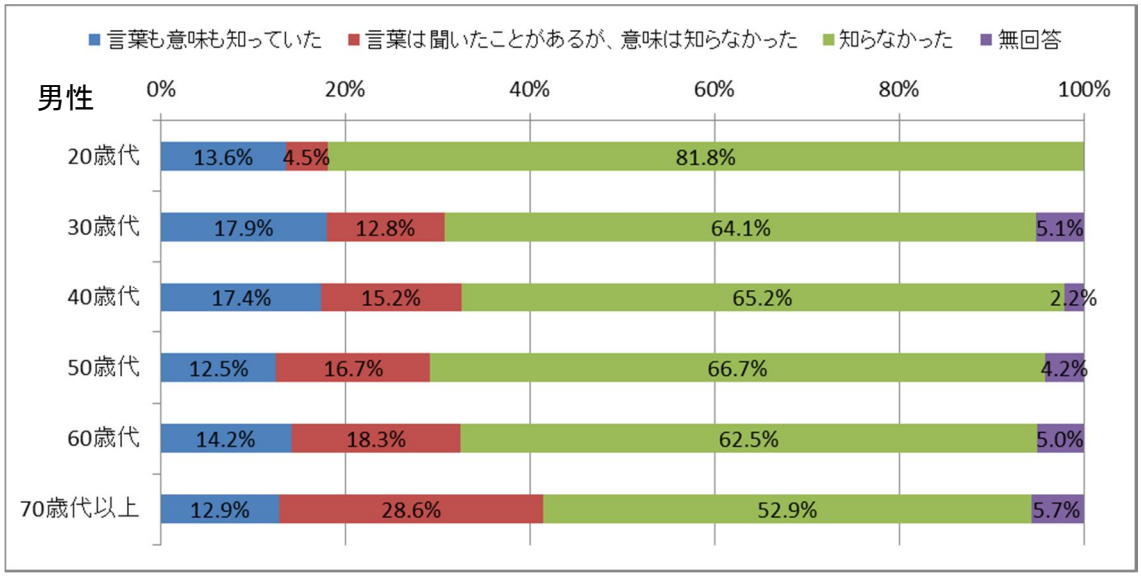
１回３０分以上の軽く汗をかく運動を、週２日以上行っている人のうち「１年以上継続している」と回答した人の割合は８４．８％、回答者全体のうちでは３８．２％となっている。運動するきっかけがあれば継続的な運動につながるのではないかと考えられる。しかし、２０歳代女性においては４１．７％と、他の年代と比較して圧倒的に継続している割合が低くなっている。

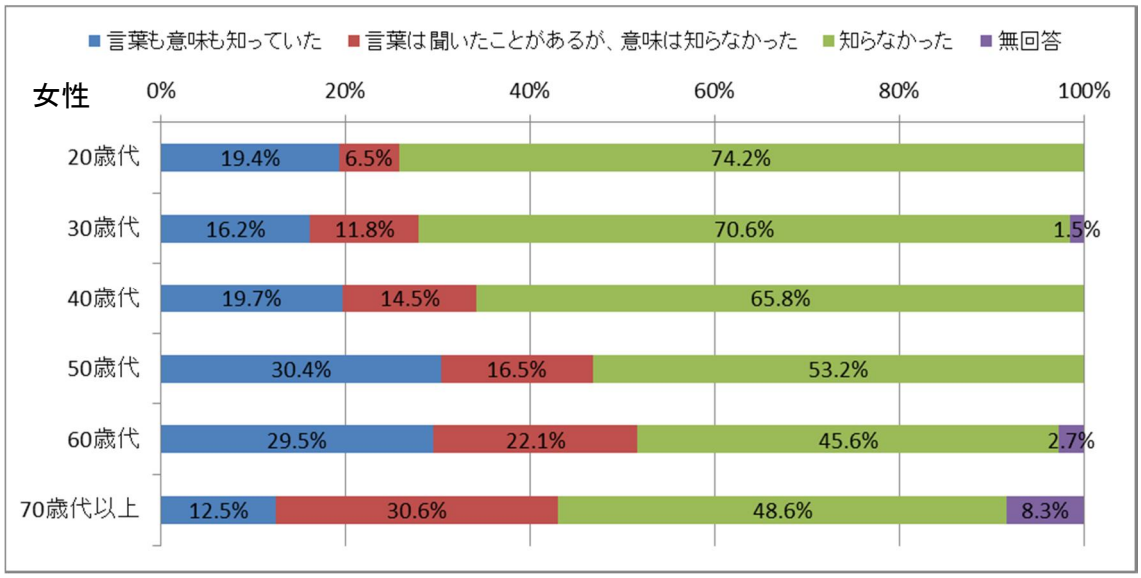
【運動していない理由について】

運動をしていない理由は、「時間がない」が最も多く、男性５０．５％、女性４９．６％となっている。次いで多かったのが「運動が嫌い」（男性１７．４％、女性２３．９％）、「仲間がいない」（男性１６．８％、女性１５．２％）という結果となっている。

また「その他」の理由では、「仕事が肉体労働であり、運動量は足りている」、「小さい子どもがいるためできない」、「機会がない」などの回答があった。

【ロコモティブシンドロームの認知度について】





資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っていましたか？」という設問に対して、「言葉も意味も知っていた」と回答した人の割合は、男性で１４．３％、女性で２３．１％と低くなっている。また、男女とも若年層の認知度が低く、年齢が上がるにつれて言葉を聞いたことがある人の割合が高くなっている。

【シルバー人材センター会員数ついて】

平成２７年度のシルバー人材センター会員数は２７０人であり、平成２３年度と比較すると減少している。そこで年次推移をみたところ、平成２４年度は２９２人、平成２５年度は２９６人、平成２６年度は２６３人であり、年によって増減している。

課題

❶ ４０～５０歳代男性、３０歳代女性の運動不足

日常生活において歩行又は同等の身体活動を、１日１時間以上行っている４０～５０歳代男性の割合が低く、１回３０分以上の軽く汗をかく運動を、週２日以上行っている人の割合も６０歳代以上と比較すると低くなっている。この年代は肥満の割合も高く、運動習慣を身につけておくことで、メタボリックシンドロームやロコモティブシンドロームの予防が期待できると考えられる。

現在進めている企業連携の中で運動の啓発も実施し、この世代へアプローチしていく必要があると考える。

また、３０歳代女性において１回３０分以上の軽く汗をかく運動を、週２日以上行っている人の割合が低くなっている。３０歳代は子育て世代であるため自分自身になかなか時間が使えなかったり、託児が必要だったりと、運動を実施しにくい環境にあるのではないかと考えられる。

今後は、子育て世代の運動習慣の定着が低いことに対する支援方法を検討していく必要があると考える。

❷ ロコモティブシンドロームの認知度が低い

ロコモティブシンドロームの認知度は低く、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった」人をあせても３７．９％であり、目標の８０．０％に到達するのは非常に困難であると考えられる。そこで、目標値を現実可能な５０．０％と再設定し、引き続き憩いのサロンや福寿大学等で情報提供していく必要があると考える。

また特に若年層の認知度が低いことから、周知・啓発方法も検討していく必要があると考える。

課題解決のための方向性

❶ ４０～５０歳代男性、３０歳代女性の運動習慣の定着

○　運動の必要性を理解する人の増加

○　日常の身体活動を意識的に増やす人の増加

❷ ロコモティブシンドロームの認知度の向上

○　言葉を聞いたことがある人の増加

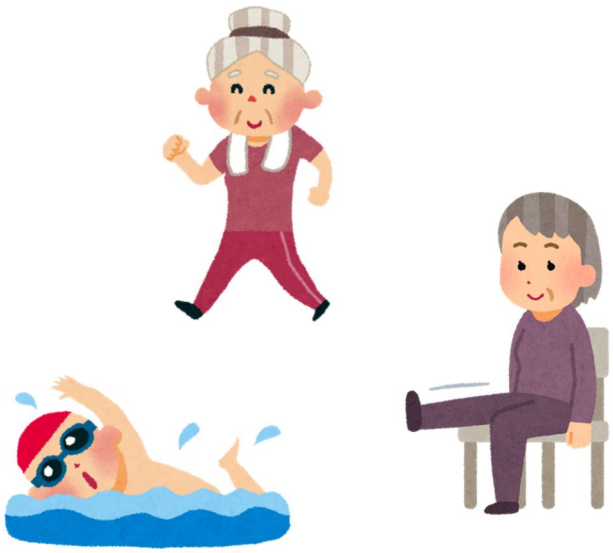
○　意味を知っている人の増加

実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	ウォーキング教室など、様々な世代に向けた運動教室を実施し、身体活動の習慣化を図る。	生涯学習課 スポーツ課 健康課
2	「元気！からだの学校」 保健体育	特定保健指導対象者に対して、メタボ予防の健康体操を実施する。	保険医療課 健康課
3	憩いのサロン	65 歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
4	体操サロン	65 歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、筋力アップ・転倒防止のための体操などを実施する。	福祉課 地域包括支援センター
5	健康づくりリーダーとの協働	憩いのサロンなど地域において体操教室を実施し、健康づくりにおける運動効果を普及・啓発する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
7	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
8	ウォーキングコース	自然、歴史文化、醸造蔵などテーマに合わせたウォーキングコースを設け、住民の健康増進を図る。	企画政策課 産業課 都市計画課
9	ゆめたろうスマイルマラソン	5・2・1 マイルの部門別マラソン及びファミリージョギングを開催する。	スポーツ課
10	たけとよウォーカー	距離別の 4 コースを自分自身の体力に合わせてウォーキング及び館内外イベントを開催する。	スポーツ課 防災交通課
11	たけとよチャレンジ大会	スリッパ飛ばし等 10 種目程度を開催する。	スポーツ課
12	体力チェック	握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立幅跳び、急歩を実施し、自分自身の体力年齢をチェックする。	スポーツ課
13	プール一般開放	住民の泳力向上と体力づくりのため、学校プールを一般開放する。	スポーツ課 学校教育課
14	体育協会活動事業	各競技スポーツの普及活動として大会を開催する。	スポーツ課
15	スポーツ推進委員活動事業	ニュースポーツ普及復興・出前講座を実施する。	スポーツ課
16	総合型地域スポーツクラブ活動事業	スポーツクラブ支援・スポーツ全般の普及振興を図る。	スポーツ課
17	介護予防教室	65 歳以上を対象に、転倒予防教室など健康づくりに役立つプログラムを提供する。	福祉課 地域包括支援センター

今後の目標

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値
① 日常生活における身体活動の増加			
日常生活において歩行又は同等の身体活動を 1 日 1 時間以上実施している人の割合	未把握	44.3%	55.0%
② 運動習慣者の増加			
30 分・週 2 日以上の運動を 1 年以上継続している人の割合	未把握	38.2%	40.0%
③ 運動やスポーツを習慣的にしている子どもの増加			
授業以外で運動やスポーツを週に 3 日以上している子どもの割合 小学 4～6 年生	未把握	70.2%	75.0%
④ 特定健診・特定保健指導の実施率の向上			
ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している住民の割合	未把握	19.3%	50.0%
⑤ 地域のつながりの強化			
憩いのサロンスタッフ数※1 シルバー人材センター会員数※2	194 人 292 人	280 人 270 人	増加 増加



（４）休養・こころの健康

めざす姿

“休息・睡眠・相談” でこころのバランスを整えよう

方向性

こころの健康づくりに対する意識を高め、日々の生活をいきいきと楽しんで送ることをめざす。

【個人・家庭の取組】
- ○　充分に睡眠をとり、心身を休める
- ○　ストレスやこころの健康に関する正しい知識を身につける
- ○　自分に合ったストレス解消法を身につける
- ○　悩みを相談できる人をつくる

【地域・職場の取組】
- ○　相談できる環境づくり
- ○　ストレス解消法についての情報提供や、メンタルヘルスに関する取り組みの実施
- ○　精神疾患や認知症に対する正しい理解を持つ

【行政の取組】
- ○　質のよい睡眠や休養に関する正しい知識の普及・啓発
- ○　こころの健康に係わる相談窓口の充実と周知
- ○　地域でのこころの病に対する早期支援と家族支援の推進

指標の達成状況

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
① 気分障がい・不安障がいに相当する心理的苦痛を感じている人の減少				
気分障がい・不安障がいに相当する心理的苦痛を感じている人の割合（うつ傾向の人の割合）	20～64 歳　未把握 65 歳以上　27.9% （H22 年度）	19.5%	減少	B
② 睡眠による休養を十分にとれていない人の減少				
睡眠による休養を十分にとれていない人の割合	未把握	20.1%	15.0%	E
③ 自分の楽しみを持っている人の増加				
自分の楽しみを持っている人の割合	86.7%	81.7%	90.0%	D
④ 悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の増加				
悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の割合	未把握	79.6%	増加	E
⑤ 認知症サポーター述べ養成者数の増加				
認知症サポーター延べ養成者数	540 人	1310 人	増加	A

【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②③④	健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価アンケート	健康課
⑤	庁内資料	地域包括支援センター

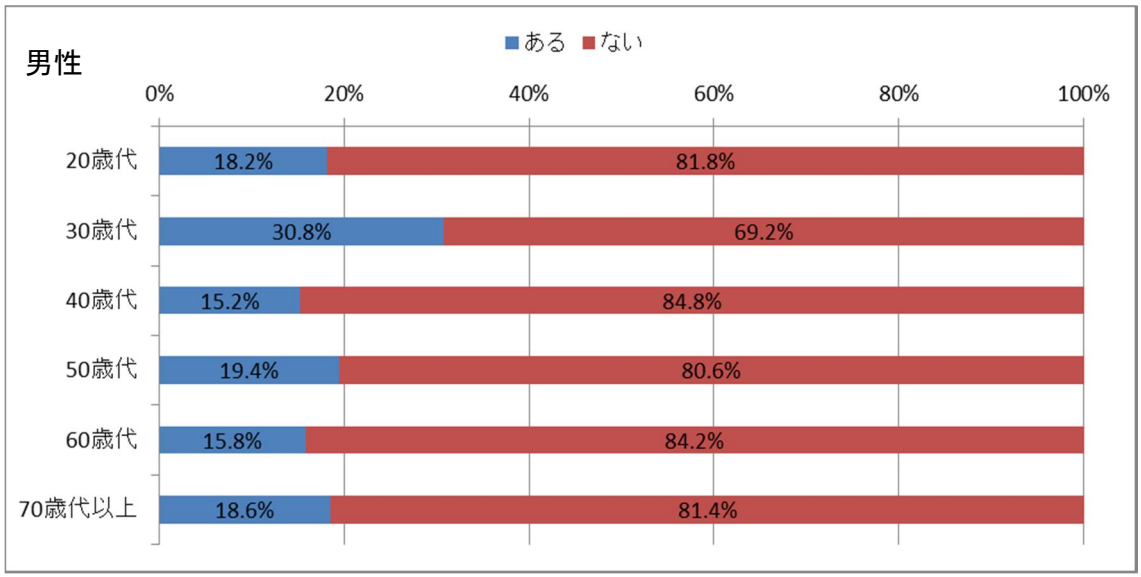
削除・変更した指標

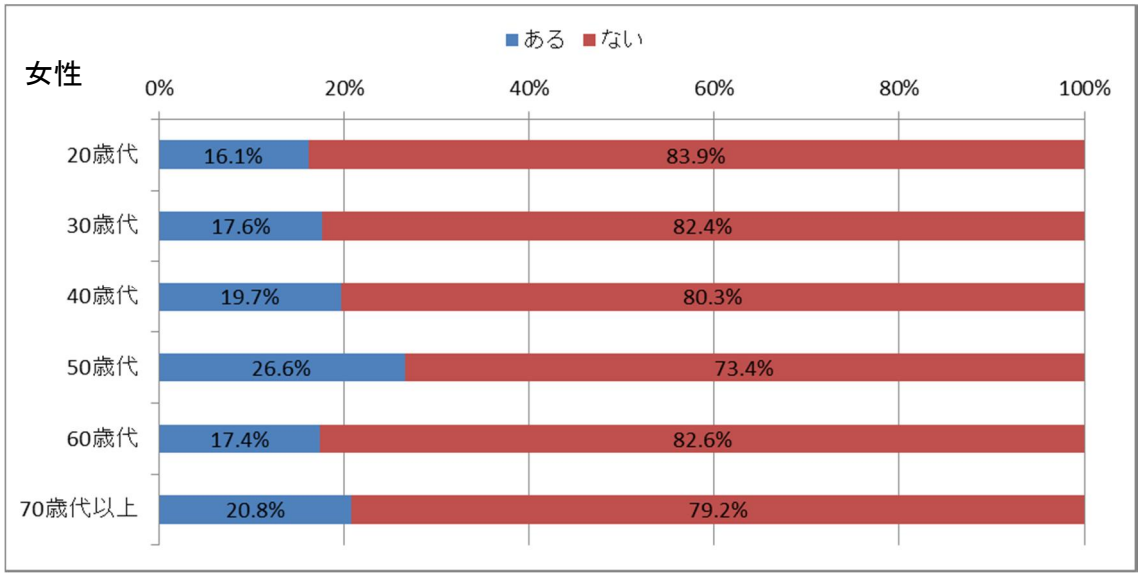
変更前		変更後
こころの相談ができる場所を知っている人の増加	⇒	悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の増加

理由：こころの相談ができる場所を知っているだけでなく、相談できる相手がいることも、こころの健康を保つことにつながるため。

現状・考察

【うつ傾向の人の割合について】



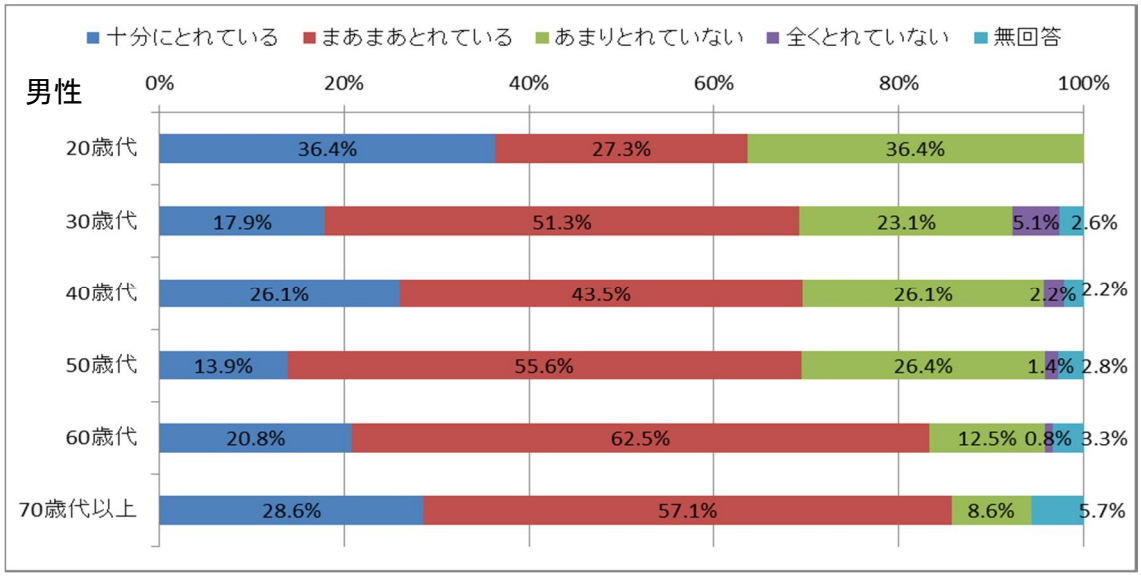


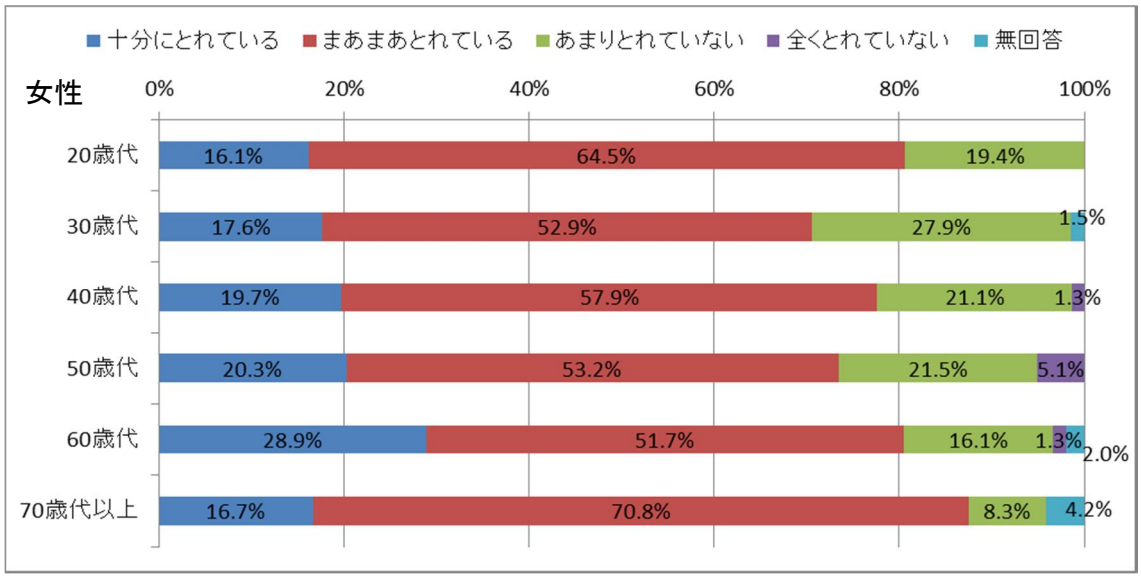
資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

ここ２週間において、「毎日の生活に充実感がないと感じる」、「これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなった」、「以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる」、「自分が役に立つ人間だと思えないと感じる」、「わけもなく疲れたように感じる」の５項目のうち２項目以上に該当した人をうつ傾向があるとし、集計を行うこととする。

３０歳代男性、５０歳代女性においてうつ傾向が高くなっている。また、３０歳代男性においては、自分の楽しみを持っている人の割合も低くなっている。

【睡眠による休養を十分にとれていない人について】

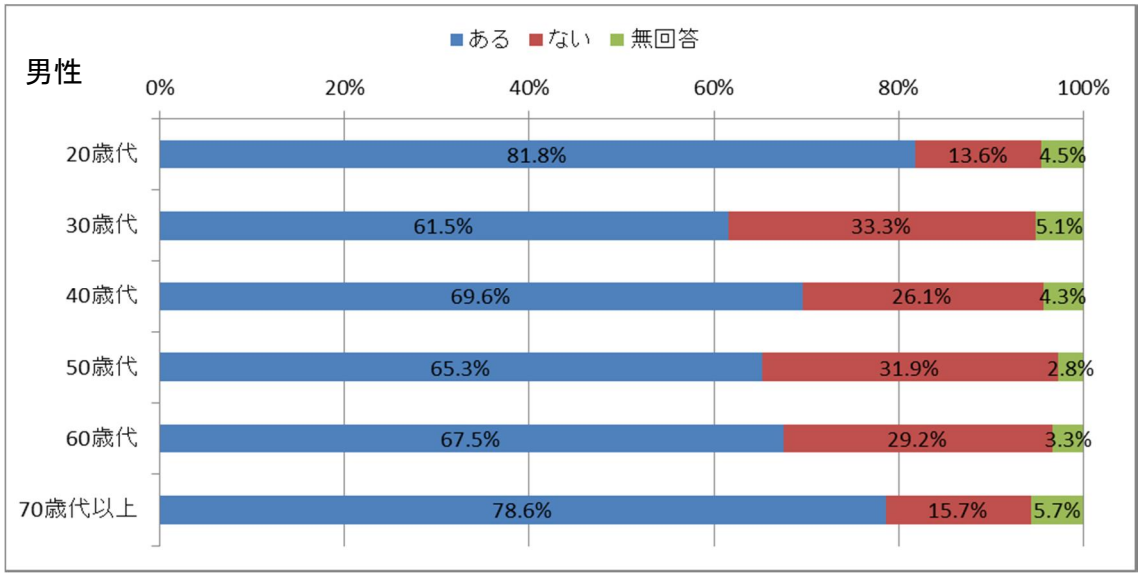


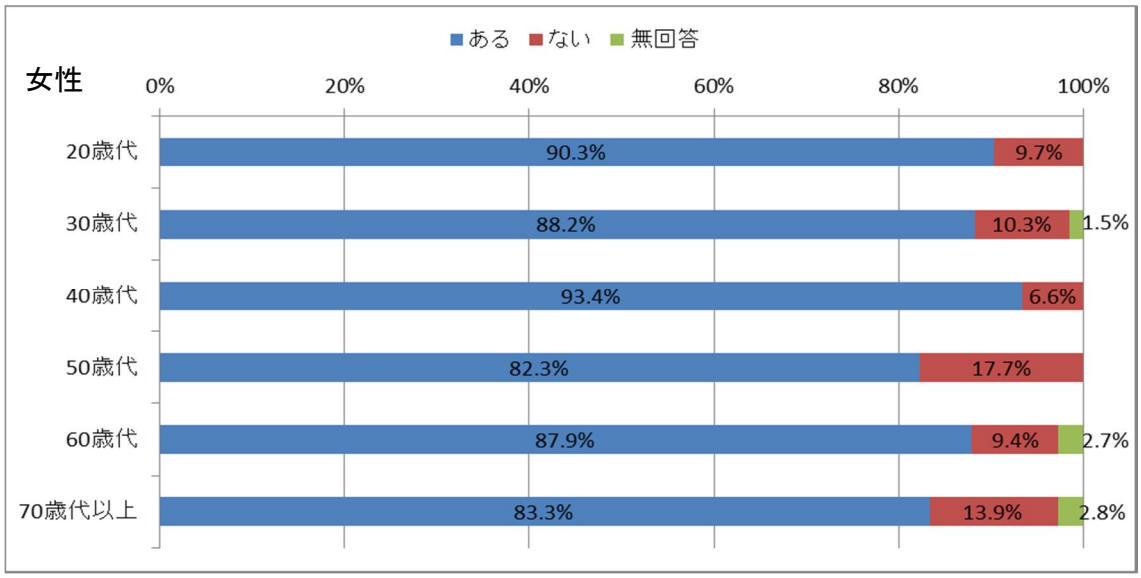


資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたはここ１か月、睡眠で休養がとれていますか？」という設問に対して、「まあまあとれている」と回答した人の割合が高くなっている。また、２割の人が「あまりとれていない」「全くとれていない」と回答している。特に、２０歳代男性において「あまりとれていない」と回答した人の割合が高くなっている。

【悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人について】





資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたは悩みや心配事が相談できる相手や場所がありますか？」という設問に対して、どの年代においても男性より女性の方が「ある」と回答した人の割合が高くなっている。

また、年代別でみると３０歳代男性は「ない」と回答した人の割合が３割以上と高くなっており、女性においては５０歳代で約２割と高くなっている。

課題

❶ ３０歳代男性におけるうつ傾向割合が高い

３０歳代男性において、うつ傾向にある人の割合が高くなっている。３０歳代は働く世代であり、ストレスを抱える人が多いことが考えられる。また、悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の割合が低く、ストレスを溜めこんでしまう人が多い傾向にあるのではないかと考えられる。

今後は企業と連携を図り、この世代におけるこころの健康づくりにおいても力を入れていく必要があると考える。

また、半田保健所や知多南部地域支援センター、医療機関とも連携を図り、必要な時に適切な相談場所につながれるように支援していく必要があると考える。

❷ ５０歳代女性におけるうつ傾向割合が高い

５０歳代女性において、うつ傾向にある人の割合が高くなっている。この年代の女性は閉経期を迎えるため、ホルモンバランスの乱れが影響しているのではないかと考えられる。

また３０歳代男性と同様、悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の割合も低くなっている。今後は、相談できる相手や場所がある人の割合が増えるような対策を検討する必要があると考える。

❸ 睡眠による休養を十分にとれていない人が多い

睡眠で休養を「あまりとれていない」人の割合は１８．７％、「全くとれていない」人の割合１．４％、合計すると２０．１％となり、目標値の１５．０％より高くなっている。

睡眠は身体の休養だけでなく、こころの休養にも重要であり、睡眠の質を高めることがこころの安定にもつながると考えられる。うつ傾向にある人の割合を減少させるためにも、睡眠で休養を十分にとれている人を増やすことが必要だと考える。

課題解決のための方向性

❶ ３０歳代男性のうつ傾向割合の減少

❷ ５０歳代女性のうつ傾向割合の減少

- ○ 悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の増加
- ○ 自分の楽しみを持っている人の増加

❸ 睡眠による休養を十分にとれている人の増加

- ○ 睡眠の時間を確保するよう努める人の増加
- ○ 質の良い睡眠について知っている人の増加

実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	各課の事業においてメンタルヘルスに関する講座を実施する。	健康課 福祉課 生涯学習課
2	健康相談	保健師等による個別精神保健相談を実施する。必要時、家庭訪問を実施する。	健康課 福祉課 地域包括支援センター 子育て支援課 社会福祉協議会
3	精神保健福祉連絡会	半田保健所、知多南部地域支援センターと連携し、地域の精神保健福祉に関するケース情報を共有化し、具体的な支援の検討をする。	福祉課 健康課 社会福祉協議会
4	憩いのサロン	65 歳以上を対象に、地域のボランティアが中心となり、健康体操、交流活動などを実施する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
5	認知症サポーター養成講座	認知症高齢者を理解し支援する役割を担う認知症サポーターの養成を、住民向け・事業所・小中学校等で実施する。	福祉課 地域包括支援センター 健康課
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課

今後の目標

指標	策定値 （H23 年度）	中間評価 （H27 年度）	目標値
① 気分障がい・不安障がいに相当する心理的苦痛を感じている人の減少			
気分障がい・不安障がいに相当する心理的苦痛を感じている人の割合（うつ傾向の人の割合）	20～64 歳　未把握 65 歳以上　27.9% （H22 年度）	19.5%	14.0%
② 睡眠による休養を十分にとれていない人の減少			
睡眠による休養を十分にとれていない人の割合	未把握	20.1%	15.0%
③ 自分の楽しみを持っている人の増加			
自分の楽しみを持っている人の割合	86.7%	81.7%	90.0%
④ 悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の増加			
悩みや心配事が相談できる相手や場所がある人の割合	未把握	79.6%	85.0%
⑤ 認知症サポーター述べ養成者数の増加			
認知症サポーター延べ養成者数	540 人	1310 人	増加

（５）アルコール

めざす姿　**飲む時・飲む量・飲むペース　ルールを守っておつきあい**

方向性

飲酒についての正しい知識を広めるとともに、妊婦や未成年の飲酒防止をめざす。

【個人・家庭の取組】
- ○　適量を守り、楽しくお酒を飲むよう心がける
- ○　多量飲酒や一気飲みによる体への影響を学ぶ
- ○　休肝日を設ける

【地域・職場の取組】
- ○　地域全体で妊婦や未成年者に対する飲酒に注意する
- ○　飲酒を無理に勧めない

【行政の取組】
- ○　過度な飲酒の害に関する正しい知識の普及・啓発
- ○　アルコール依存等を相談できる体制づくり
- ○　飲酒が未成年・妊婦に及ぼす害の周知

指標の達成状況

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
① 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の減少				
1 日当たりの純アルコール摂取量				
男性 40g 以上の人の割合	29.3%	11.6%	減少	B
女性 20g 以上の人の割合	14.3%	9.7%	減少	B
② 未成年者に対する飲酒の害について知っている子どもの増加				
未成年者に対する飲酒の害について知っている子どもの割合				
小学 4～6 年生	未把握	95.3%	増加	E
③ 妊婦中の飲酒をなくす				
妊婦の飲酒率	5.8%	0.8%	0%	B+

【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②	健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価アンケート	健康課 学校教育課
③	平成２７年度母子保健報告	健康課

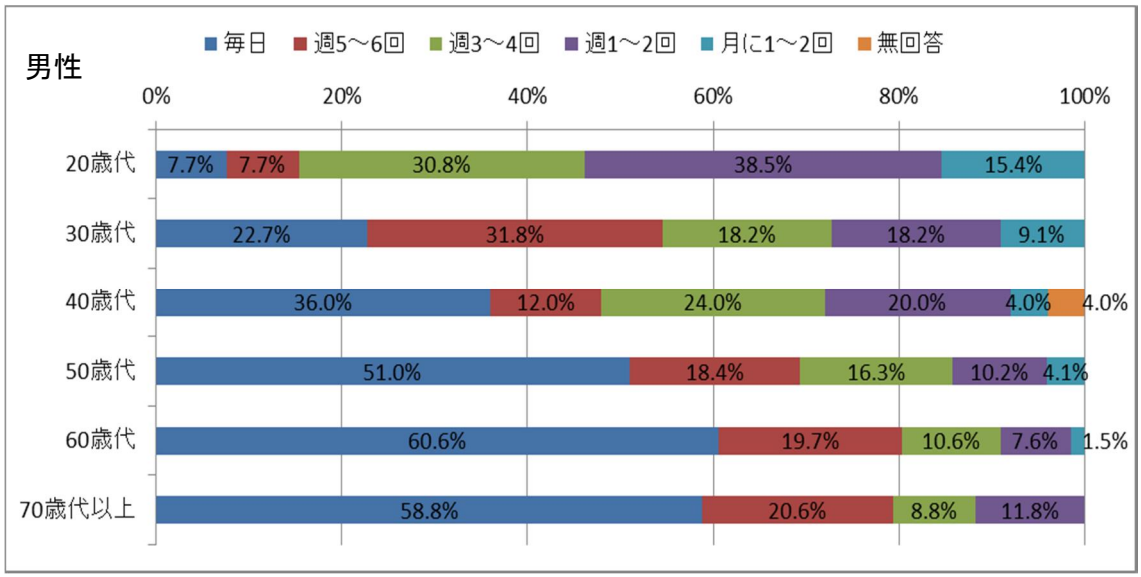
削除・変更した指標

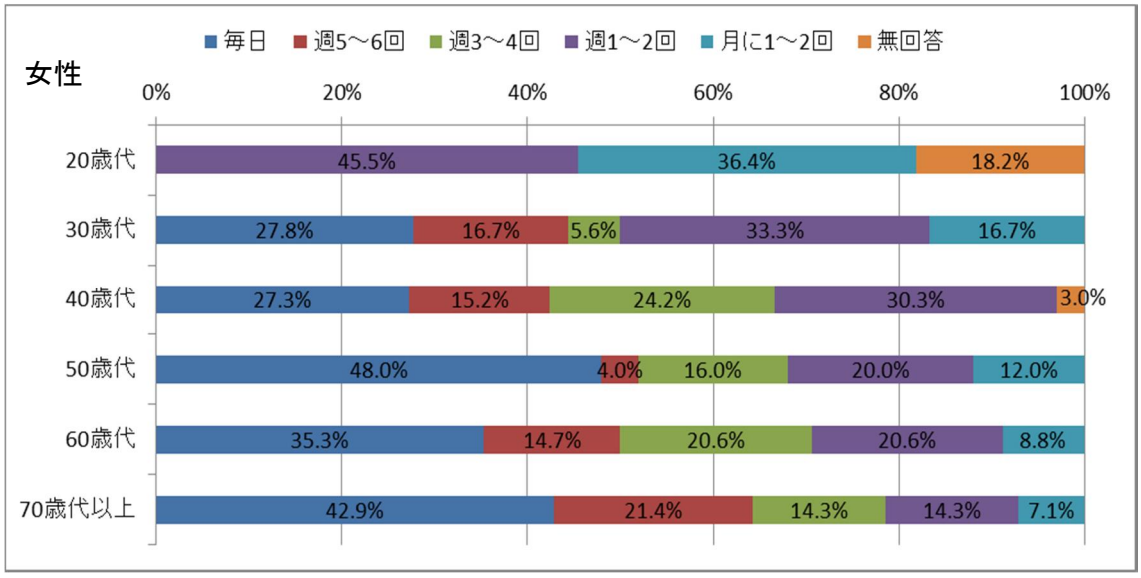
変更前		変更後
小学５年生	⇒	小学４～６年生

理由：小学生の項目については今後の事業展開を考慮してより多くのデータを得るために、小学４～６年生を対象とした独自のアンケートを実施したため。

現状・考察

【（飲酒している人の）飲酒頻度について】

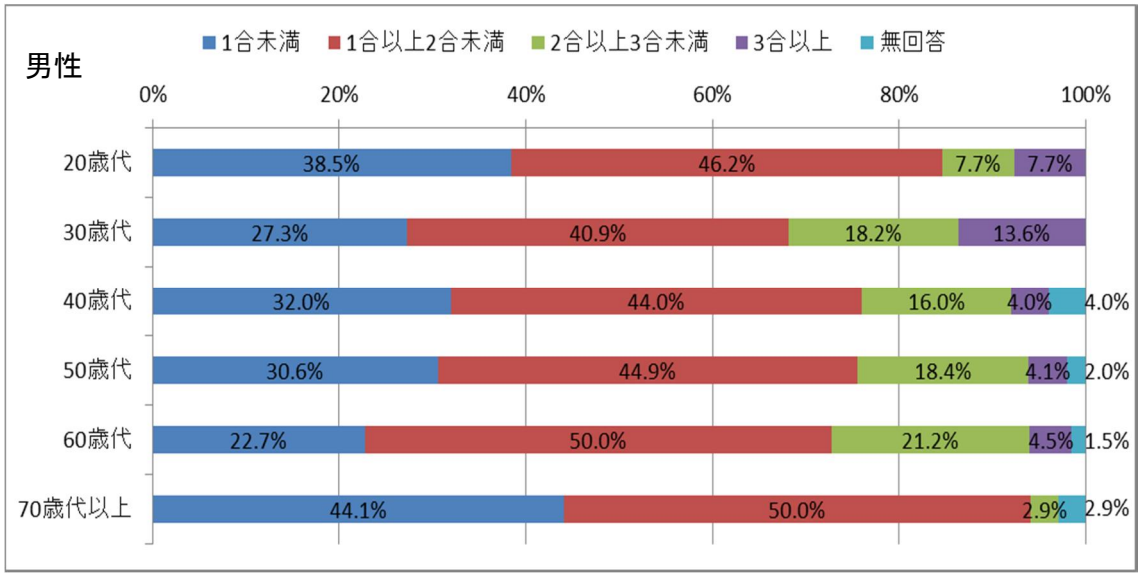


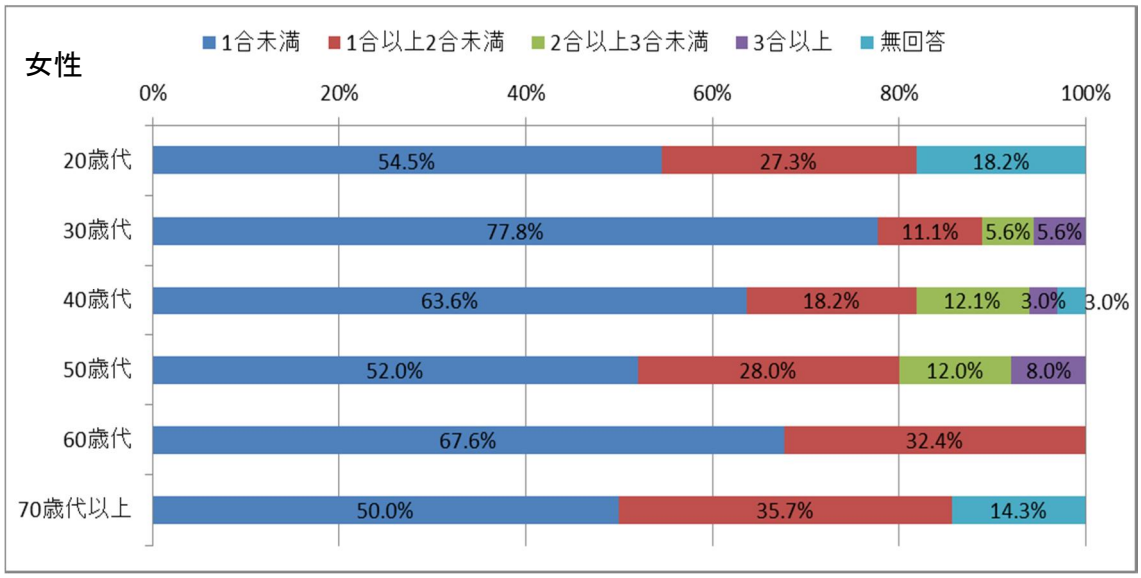


資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

お酒を飲むと回答した人のうち、「毎日飲む」と回答した人の割合が、男女とも５０歳代以上で高くなっている。また、２０歳代女性は週３回以上飲酒する人がいないのに対して、３０歳代になると５０．１％と急増している。その中でも特に、「毎日飲む」の割合が約３割と高くなっている。

【（飲酒している人の）飲酒量について】



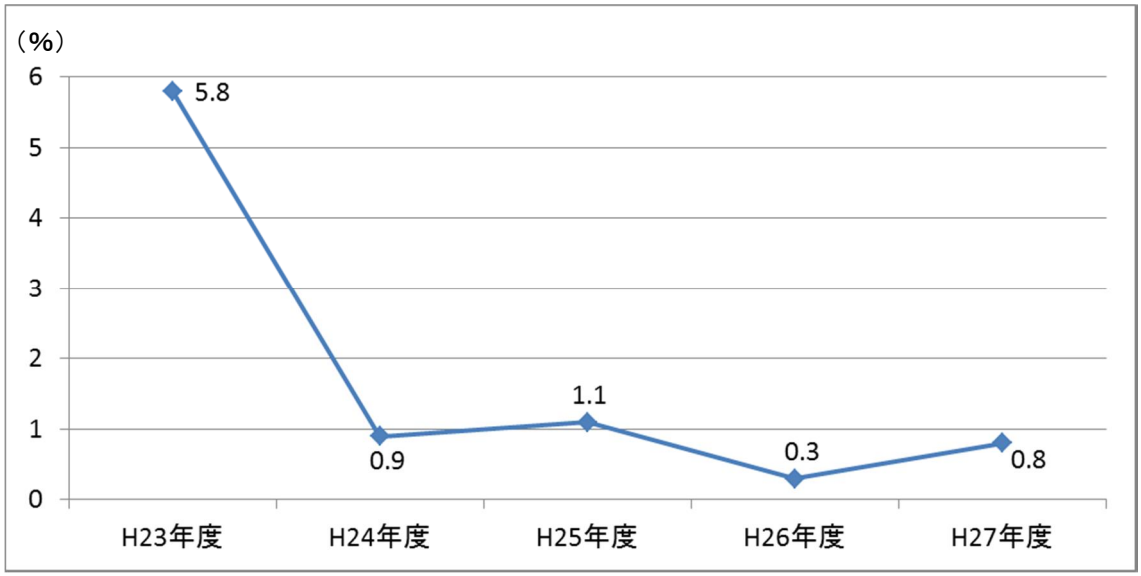


資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

お酒を飲むと回答した人のうち、男性において飲酒量が「１合以上２合未満」の人の割合は、約５割と高くなっている。また、女性では「１合未満」の人の割合は６割以上と高くなっている。

生活習慣病のリスクを高める飲酒量は、１日当たりの純アルコール摂取量が男性で４０ｇ以上、女性で２０ｇ以上である。純アルコール摂取量４０ｇ以上に相当する飲酒量「２合以上」の男性の割合は２０．５％、回答者全体のうちでは１１．６％となっている。また、純アルコール摂取量２０ｇ以上に相当する飲酒量「１合以上」の女性の割合は３４．１％、回答者全体のうちでは９．７％となっており、平成２３年度と比較してかなり減少している。

【妊婦の飲酒率について】



資料：母子保健報告

平成２３年度から平成２７年度までの妊婦の飲酒率の年次推移は、平成２４年度に大幅に減少し、その後横ばいになっている。

課題

❶ （飲酒している人のうち）５０歳代以上で習慣化している人が多い

毎日飲酒する人の割合は、男女とも５０歳代から高くなっている。個人差はあるものの、この年代は若年期に比べてアルコールを分解・吸収する機能が低下することや、体内水分量の減少により血中アルコール濃度が高くなる傾向がみられる。また、日常的な飲酒によりアルコール摂取量やアルコール依存のリスクが増加することから、休肝日を設けることが望まれる。

適正飲酒には様々な健康効果があるため、飲酒によるメリット・デメリットを理解し、適正な飲酒量や飲酒頻度を実践できる人の増加をめざして、啓発していく必要があると考える。

❷ 未成年者及び妊婦の飲酒について

平成２７年度の妊婦の飲酒率は０．８％であり、平成２４年度において大幅に減少した後、低率を維持している。今後も維持・さらに減少させるために、引き続き妊娠時における飲酒の害について啓発していく必要がある。

また、未成年者に対する飲酒の害については、大人のみならず子どもに対しても周知していく必要があると考える。現在、学校保健と連携し周知・啓発を実施しており、今後も継続していく必要があると考える。

課題解決のための方向性

❶ （飲酒している人のうち）５０歳代以上で習慣化している人の減少

○ 休肝日の必要性を理解する人の増加

○ 適正な飲酒量を知っている人の増加

❷ 未成年者及び妊婦の飲酒について正しく理解している人の割合の維持

○ 未成年者や妊婦に対する飲酒の害について知っている人の増加

実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	飲酒の害について周知を図るとともに、町主催のイベントや各種教室を実施する。	健康課 生涯学習課
2	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
3	特定保健指導 （動機づけ支援・積極的支援）	適正な飲酒量の情報提供をする。	保険医療課 健康課
4	母子健康手帳交付時での保健指導	アンケートにより、妊婦の飲酒習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
5	健康相談	保健師等による健康相談を実施する。必要時、家庭訪問を実施する。	健康課 福祉課 社会福祉協議会
6	企業・全国健康保険協会 愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課

今後の目標

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値
① 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している人の減少			
1 日当たりの純アルコール摂取量			
男性 40g 以上の人の割合	29.3%	11.6%	15.0%
女性 20g 以上の人の割合	14.3%	9.7%	3.0%
② 未成年者に対する飲酒の害について知っている子どもの増加			
未成年者に対する飲酒の害について知っている子どもの割合			
小学 4～6 年生	未把握	95.3%	100.0%
③ 妊娠中の飲酒をなくす			
妊婦の飲酒率	5.8%	0.8%	0%

（６）たばこ

めざす姿

たばこの煙は「吸わない」「吸わせない」

方向性

たばこの害を正しく理解し、禁煙および受動喫煙防止の意識向上をめざす。

【個人・家庭の取組】
- ○　喫煙がからだに及ぼす影響を学ぶ
- ○　受動喫煙の害を知る
- ○　喫煙者は喫煙の周囲への影響を自覚し、喫煙マナーを守る

【地域・職場の取組】
- ○　公共の場や飲食店などにおける禁煙の推進
- ○　事業所内での受動喫煙防止対策の推進

【行政の取組】
- ○　喫煙が及ぼす健康影響について周知・啓発
- ○　禁煙希望者への情報提供・禁煙支援
- ○　公共施設やイベントの場などにおいての禁煙推進
- ○　未成年・妊婦の喫煙が及ぼす害の周知

指標の達成状況

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
① COPDの認知度の向上				
COPD について知っている人の割合	未把握	17.4%	80.0%	E
② 成人の喫煙率の減少（喫煙をやめたい人がやめる）				
成人の喫煙率				
男性	23.5%	25.7%	減少	D
女性	4.1%	6.3%	減少	D
③ 喫煙することで受ける害を知っている人の増加				
喫煙することで受ける害を知っている人の割合	89.1%	96.1%	100.0%	B+
④ 受動喫煙防止の取り組みを行っている施設の増加				
受動喫煙防止対策実施認定制度を受けている施設数	118 か所	148 か所	増加	A
⑤ 喫煙・受動喫煙の害について知っている子どもの増加				
喫煙・受動喫煙の害について知っている子どもの割合				
小学 4～6 年生	未把握	97.4%	増加	E
⑥ 妊娠中の喫煙をなくす				
妊婦の喫煙率	7.1%	2.4%	0%	B+
⑦ 育児期間中の同居の家族の喫煙をなくす				
同居の家族の喫煙率				
3 か月児健康診査時	41.0%	46.3%	0%	D
1 歳 6 か月児健康診査時	45.5%	45.5%	0%	C
3 歳児健康診査時	46.5%	45.2%	0%	C

【各指標項目の資料等】

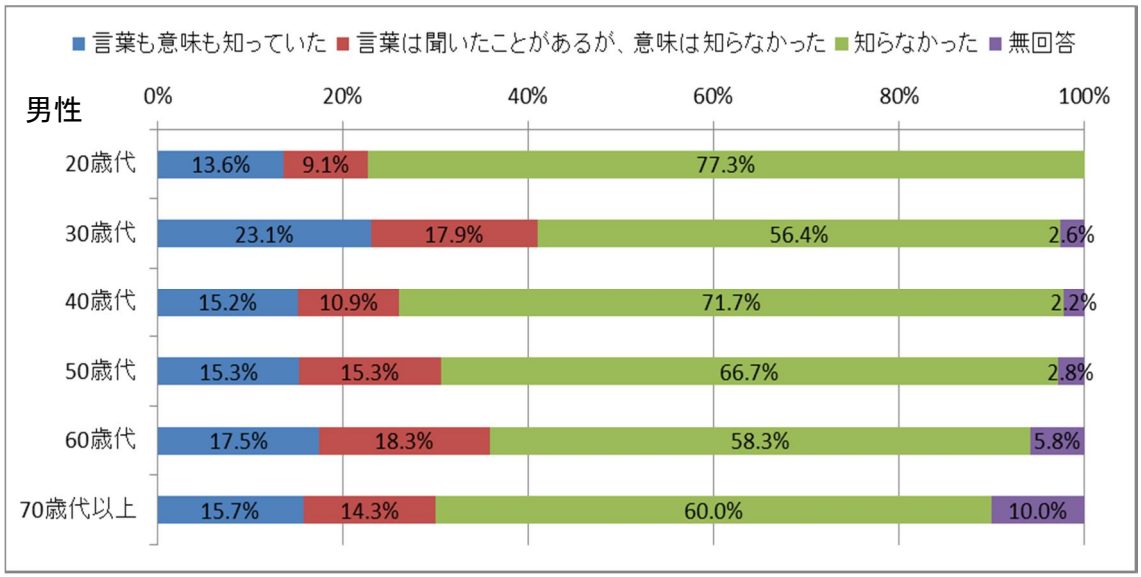
項目	資料	担当
①②③⑤	健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価アンケート	健康課 学校教育課
④	平成２７年度知多半島医療圏地域・職域連携推進協議会（受動喫煙防止対策推進の状況）	健康課
⑥	平成２７年度母子保健報告	健康課
⑦	平成２７年度母子健康診査マニュアル集計結果	健康課

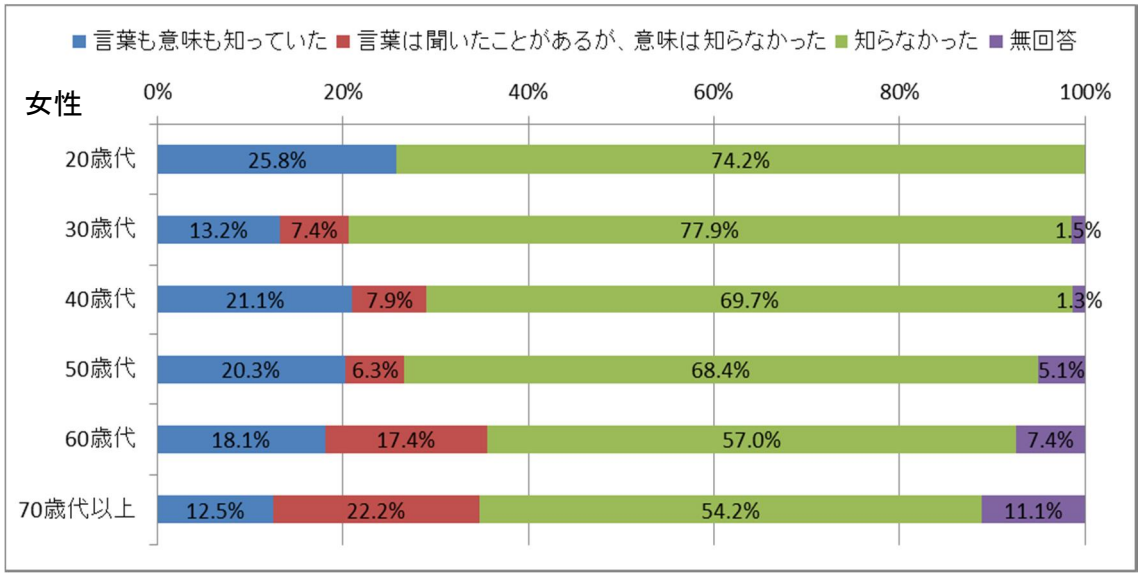
削除・変更した指標

変更前		変更後
成人の喫煙率	⇒	男女別の成人の喫煙率
理由：喫煙率は男女差が大きいことや健康日本２１あいち新計画との整合性を考慮したため。		
小学５年生	⇒	小学４～６年生
理由：小学生の項目については今後の事業展開を考慮してより多くのデータを得るために、小学４～６年生を対象とした独自のアンケートを実施したため。		

現状・考察

【ＣＯＰＤの認知度について】



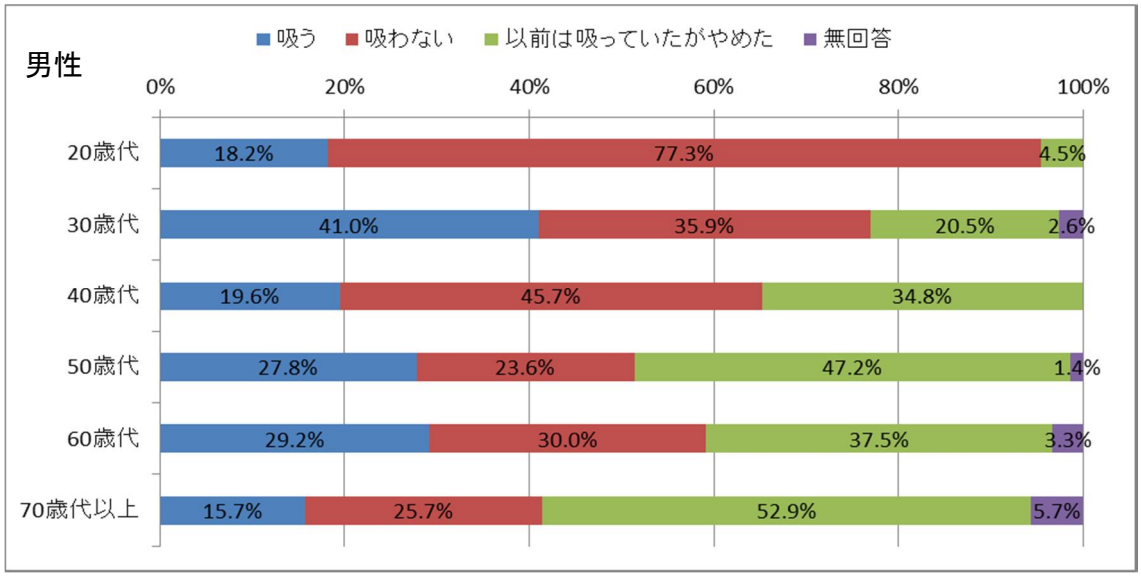


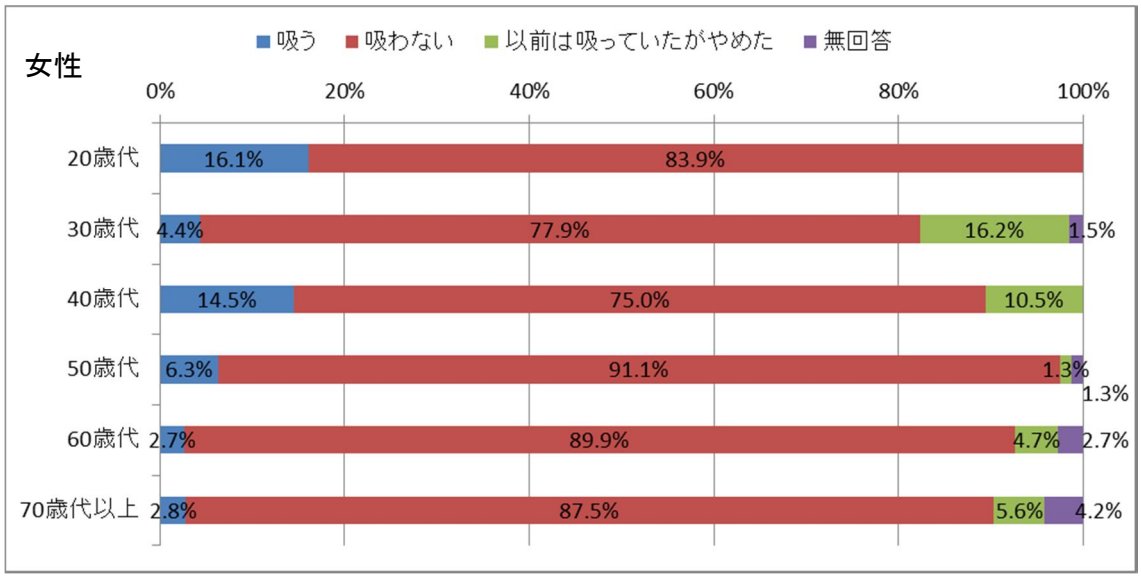
資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたはＣＯＰＤ（慢性閉塞性肺疾患）を知っていましたか？」という設問に対して、「言葉も意味も知っていた」と回答した人の割合は、男女とも２割以下と低くなっている。また、「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった」と回答した人の割合は男性の方が高くなっており、喫煙率の高い男性の方が、たばこに関する情報に触れる機会が多いのではないかと考えられる。

また、６０歳代女性で「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった」と回答した人の割合が増加しているのは、健康情報に比較的関心のある世代であり、町内で行われている憩いのサロンや福寿大学を始め、テレビや新聞等で情報を入手するためではないかと考えられる。

【喫煙状況について】



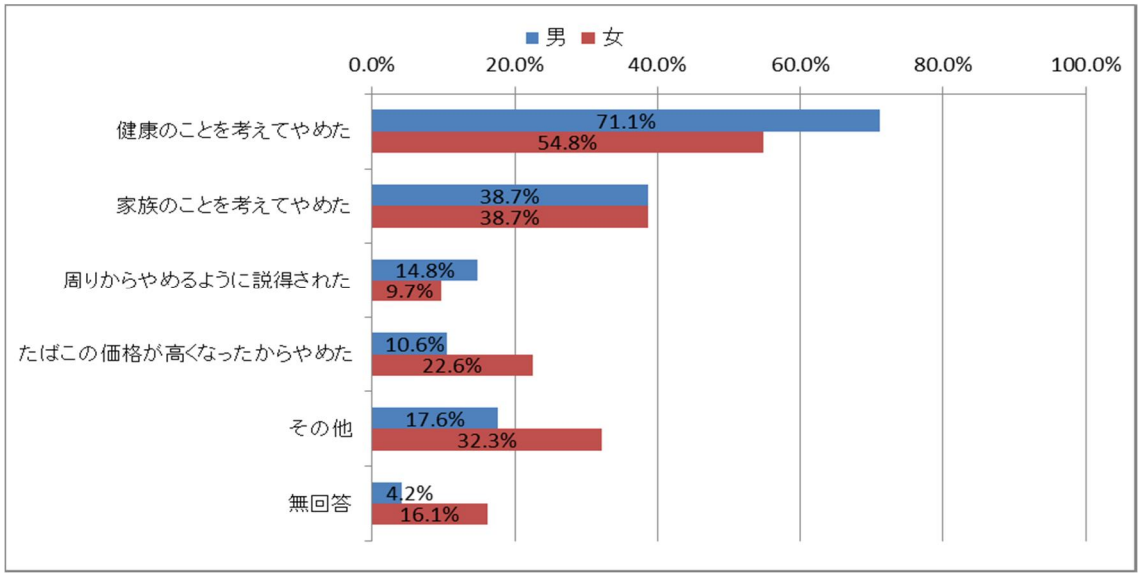


資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたはたばこを吸いますか？」という設問に対して、「吸う」と回答した人の割合は男性２５．７％、女性６．３％となっている。

また、３０歳代男性は約４割が「吸う」と回答しており、他の年代と比較して喫煙率が高くなっている。女性では２０歳代の喫煙率が高くなっており、子育て世代の３０歳代で一時減少するが、４０歳代で再度増加している。

【禁煙のきっかけについて】

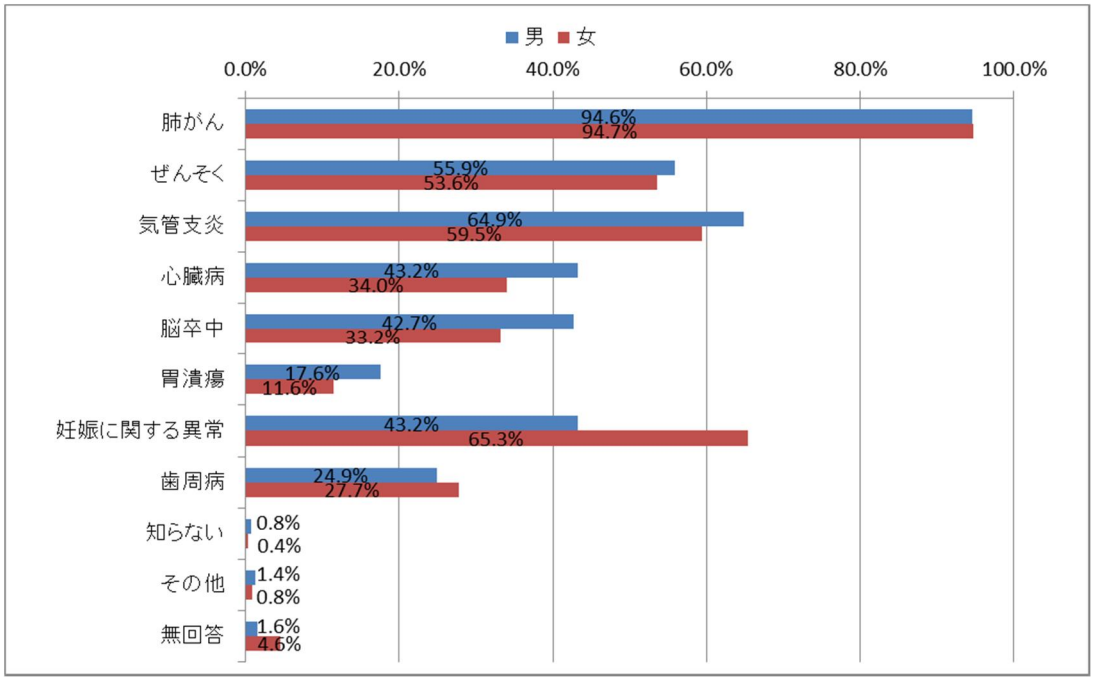


資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたはたばこを吸いますか？」という設問に対して、「以前は吸っていたがやめた」と回答した人の割合が、男性３８．４％、女性６．５％となっている。そのうち禁煙できたきっかけとして、男女とも「健康のことを考えてやめた」、「家族のことを考えてやめた」と回答する人の割合が高くなっている。

また次いで多いのが、男性では「周りから説得された」なのに対して、女性では「価格が高くなったから」であり、性別の差もみられる。「その他」の理由では、「病気のため」、「妊娠・出産のため」が多く、「内服薬を試しに飲んだらやめれた」という回答もみられる。

【喫煙に関する病気について】

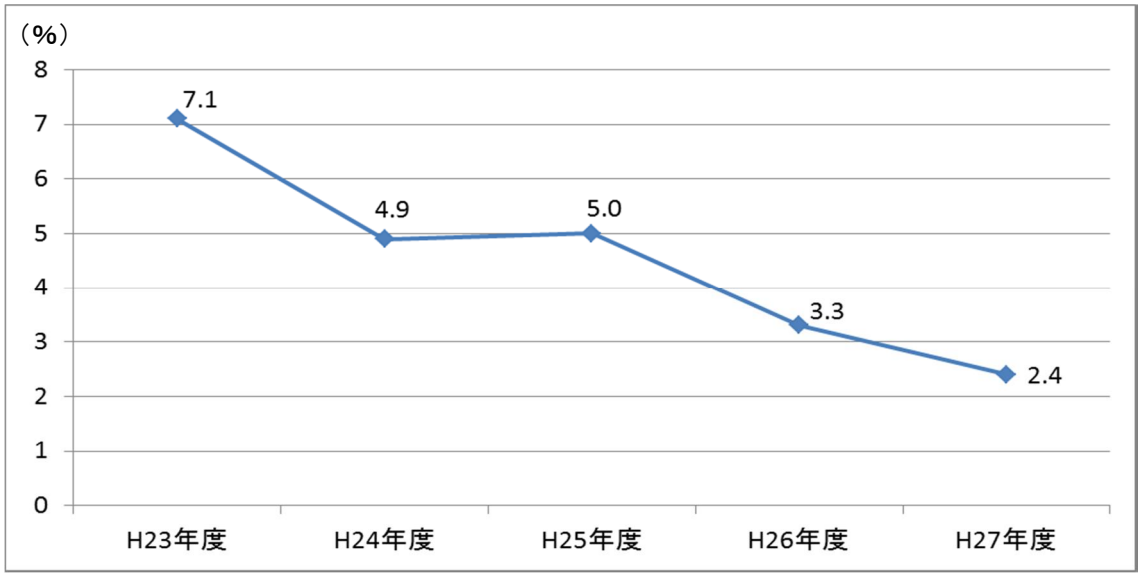


資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたが知っている、喫煙に関する病気は何ですか？」という設問に対して、「肺がん」と回答した人の割合が９割以上と高くなっている。次いで「気管支炎」、「ぜんそく」の認知度が高くなっている。

また、「妊娠に関する異常」は女性で６５．３％であるのに対し、男性では４３．２％と低くなっており、特に男性への周知が必要であると考える。

【妊婦の喫煙率について】



資料：母子保健報告

平成２３年度から平成２７年度までの妊婦の喫煙率の年次推移は、緩やかに減少している。

【育児期間中の同居の家族の喫煙について】

育児期間中の同居の家族の喫煙率において、母子健康診査マニュアル集計結果を確認したところ、平成２３年度の数値に誤りがあったため、今回の中間評価において適切な数値に修正する。

育児期間中の同居の家族の喫煙率は横ばい傾向にあり、妊娠中のみならず乳幼児期における喫煙が及ぼす影響も周知していく必要があると考える。

課題

❶ 成人の喫煙率の増加

平成２３年度と比較して、成人の喫煙率は男女とも増加している。喫煙は本人だけでなく、受動喫煙による周囲への影響も大きいことから、喫煙率の減少は重要な課題であると考える。

特に３０歳代男性の喫煙率が高いことから、今後は企業と連携する必要があると考えられる。また子育て世代でもあることから、子どもを通じた健康教育が有効であり、学校保健との連携もより一層重要となってくると考える。

❷ 育児期間中における同居家族の喫煙率が高い

喫煙に関する病気のうち、「妊娠に関する異常」についての認知度が、特に男性で低くなっている。たばこによる害は喫煙者のみならず、受動喫煙による非喫煙者にも大きく関与するため、妊婦のみならず男性への周知も重要であると考えられる。

また、喫煙は胎児期のみならず乳幼児期にも大きな影響を与えるため、子育て世代、祖父母世代への周知を強化していく必要があると考える。

❸ ＣＯＰＤの認知度が低い

ＣＯＰＤについて「言葉も意味も知っていた」と回答した人は１７．４％とかなり低くなっており、目標値８０．０％に到達するのは非常に困難であると考えられる。そこで目標値を３０．０％と再設定し、「言葉も意味も知っていた」「言葉は聞いたことがある」人の数を増やしていくために、周知方法を検討していく必要があると考える。

課題解決のための方向性

❶ 成人の喫煙率低下

○　喫煙・受動喫煙についての害を理解し、たばこをやめたいと思う人の増加

❷ 育児期間中における同居家族の喫煙率の低下

○　喫煙・受動喫煙が胎児及び乳幼児に及ぼす悪影響を理解している人の増加

❸ ＣＯＰＤの認知度の向上

○　言葉を聞いたことがある人の増加

○　意味を知っている人の増加

実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	各種健康教育・啓発事業	町主催のイベントや各種教室において、たばこの害について周知を図るとともに、禁煙治療のできる医療機関の情報を収集し、広く周知を図る。	健康課
2	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
3	母子健康手帳交付時での保健指導	アンケートにより、妊婦及び家族の喫煙習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
4	3 か月児・1 歳 6 か月児・3 歳児健康診査時アンケート	問診項目で父母の喫煙習慣の有無を把握し、保健指導を実施する。	健康課
5	健康相談	特定保健指導の実施時に保健師等による健康相談を行い、たばこの害の周知啓発を図る。	健康課
6	企業・全国健康保険協会愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
7	受動喫煙防止対策事業	受動喫煙防止対策実施施設認定申請の受付を行い、公共施設・公共の場・職場における敷地内禁煙、建物内禁煙を推進する。	健康課
8	薬物乱用防止啓発事業	薬物乱用のない地域づくりをめざし、薬物乱用防止の街頭活動を実施する。	健康課 福祉課 生涯学習課

新規指標

周りで喫煙している人がいると答えた子どもの割合
理由：受動喫煙の影響を受けやすい子どもが置かれている環境的指標とするため。

【新規指標の資料等】

資料	担当
健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価アンケート	健康課

今後の目標

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値
① COPDの認知度の向上			
COPD について知っている人の割合	未把握	17.4%	30.0%
② 成人の喫煙率の減少（喫煙をやめたい人がやめる）			
成人の喫煙率			
男性	23.5%	25.7%	17.0%
女性	4.1%	6.3%	4.0%
③ 喫煙することで受ける害を知っている人の増加			
喫煙することで受ける害を知っている人の割合	89.1%	96.1%	100.0%
④ 受動喫煙防止の取り組みを行っている施設の増加			
受動喫煙防止対策実施認定制度を受けている施設数	118 か所	148 か所	増加
⑤ 喫煙・受動喫煙の害について知っている子どもの増加			
喫煙・受動喫煙の害について知っている子どもの割合			
小学 4～6 年生	未把握	97.4%	100.0%
周りで喫煙している人がいると答えた子どもの割合			
小学 4～6 年生	未把握	60.3%	50.0%
⑥ 妊娠中の喫煙をなくす			
妊婦の喫煙率	7.1%	2.4%	0%
⑦ 育児期間中の同居の家族の喫煙をなくす			
同居の家族の喫煙率			
3 か月児健康診査時	41.0%	46.3%	0%
1 歳 6 か月児健康診査時	45.5%	45.5%	0%
3 歳児健康診査時	46.5%	45.2%	0%

（７）歯・口腔の健康

めざす姿

いい歯！いい口！いい笑顔！噛めておいしい歯っぴーライフ

方向性

生涯にわたり自分の歯でしっかり噛めるように、歯科保健の意識向上をめざす。

【個人・家庭の取組】
- ○　かかりつけ歯科医をもつ
- ○　１日２回以上歯磨きをする
- ○　歯間清掃器具の活用

【地域・職場の取組】
- ○　歯磨きの仕方やおやつのとり方など食習慣について話題にする場を設ける
- ○　歯の健康に関する知識、情報提供

【行政の取組】
- ○　関係機関と連携し、歯科保健の重要性についての周知・啓発
- ○　多世代における歯科検診の機会を設ける
- ○　乳幼児期の保護者への正しい知識の普及
- ○　高齢者の口腔機能の維持向上
- ○　関係機関と連携し、フッ化物洗口を推進

指標の達成状況

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
① 歯周病検診受診率の増加				
歯周病検診受診率	13.5%	13.4%	20.0%	C
② 歯の喪失防止				
60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する人の割合	76.3%	88.5%	維持・増加	B
40 歳で喪失歯のない人の割合	87.1%	93.2%	維持・増加	B
③ 歯周疾患を有する人の減少				
進行した歯周炎を有する人の割合（CPI 3 または 4 に該当する人）				
40 歳代	32.3%	13.5%	25.0%	A
60 歳代	30.3%	21.2%	維持・減少	B
④ 過去 1 年間に歯科検診を受診した人の増加				
過去 1 年間に歯科検診を受診した人の割合	未把握	63.1%	増加	E
⑤ 1 日に 2 回以上歯をみがく人の増加				
1 日に 2 回以上歯をみがく人の割合	67.2%	70.0%	80.0%	B-
⑥ 3 歳児でう蝕がない子の増加				
3 歳児健康診査の歯科健診においてう蝕罹患型が O 型の子の割合	89.0%	85.5%	95.0%	D
⑦ 12 歳でう蝕がない児童の増加				
学校健康診査の歯科検診における 12 歳児（中学1年生）の永久歯のう蝕がない児童の割合	59.8%	72.3%	65.0%	A

【各指標項目の資料等】

項目	資料	担当
①②③	歯周病検診結果	健康課
④⑤	健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価アンケート	健康課
⑥⑦	歯科保健事業実施報告（地域歯科保健業務状況報告）	健康課

削除・変更した指標

なし

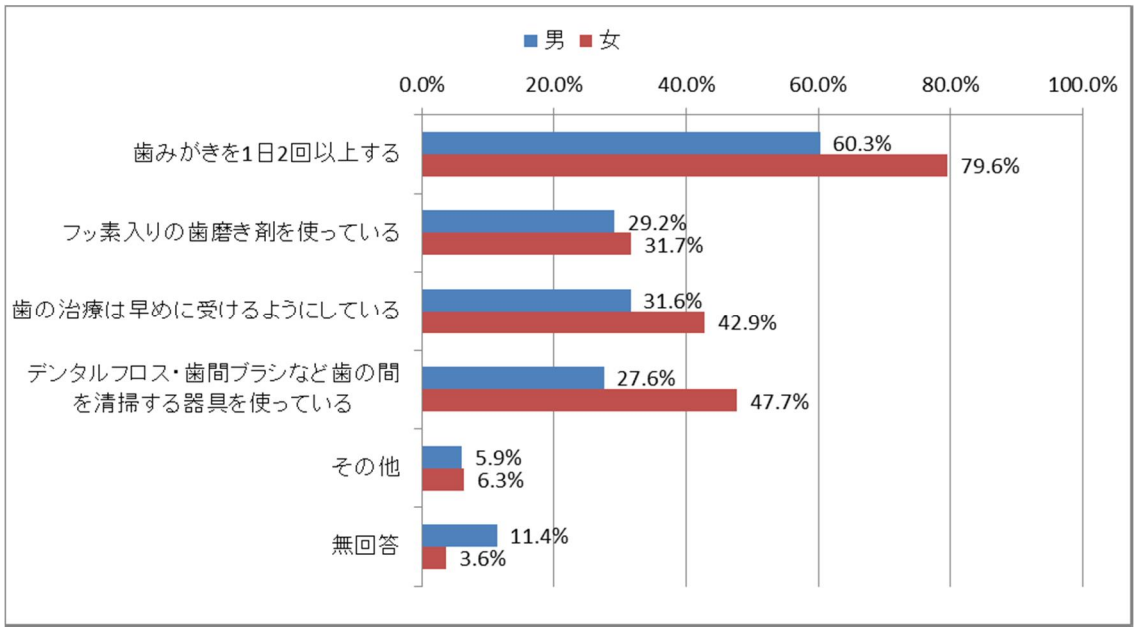
現状・考察

【子どものう蝕について】

平成２３年度と比較して、３歳児でう蝕がない子の割合は低くなっているが、１２歳でう蝕がない児童の割合は高くなっている。

１２歳においてう蝕のない児童が増加したのは、平成２６年９月より町内４小学校の全学年を対象にフッ化物洗口を実施していることや、歯科医院の増加により通いやすい環境になったことなどが考えられる。

【歯の健康管理について】

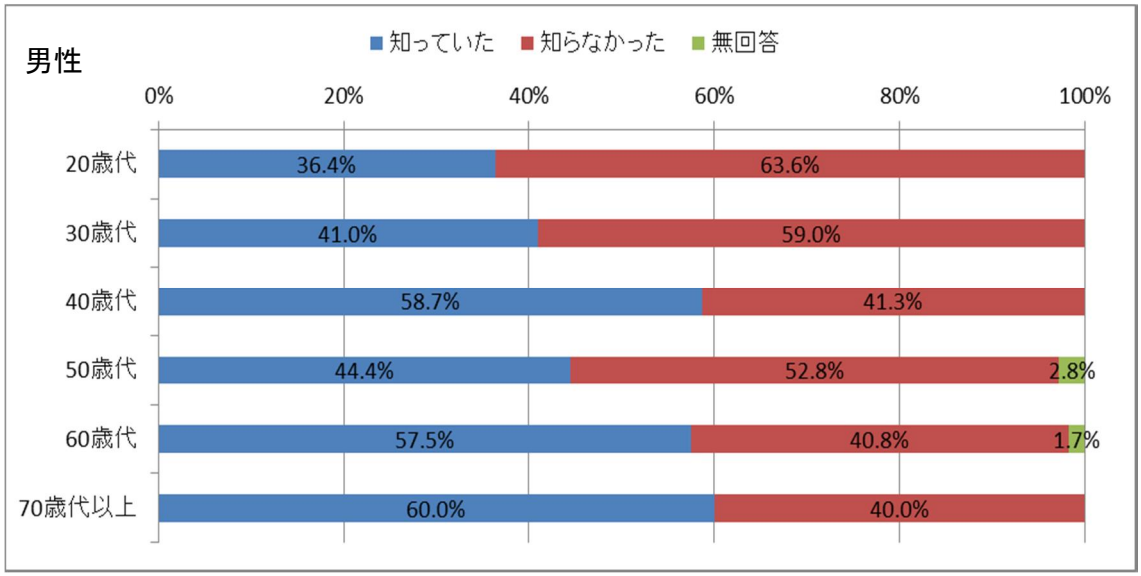


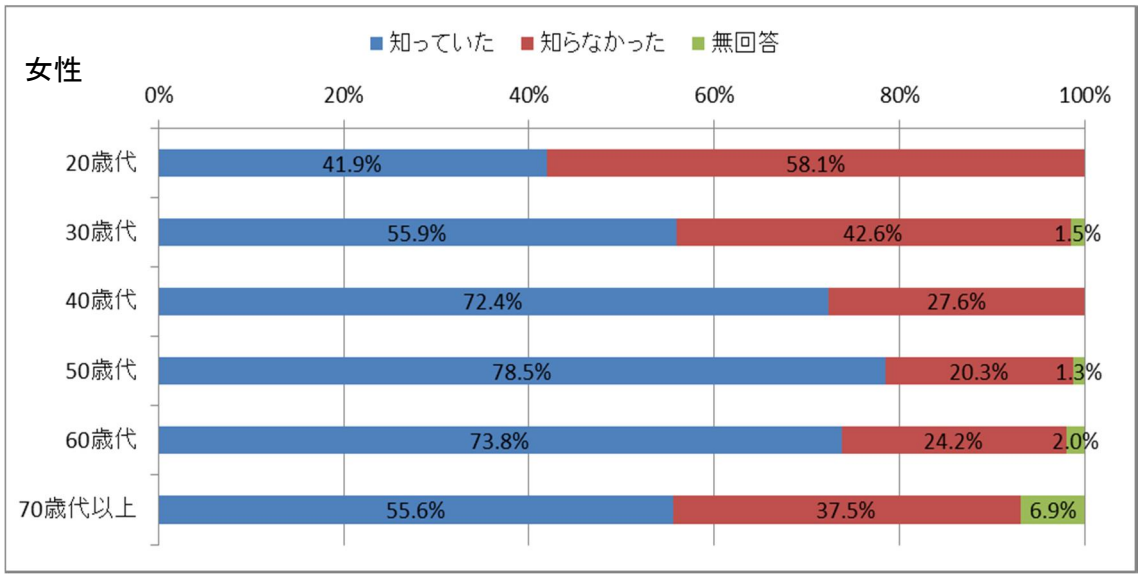
資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたは歯の健康管理として実践していることはありますか？」という設問に対して、全ての項目において男性より女性の方が実践している割合が高くなっている。

また、男女とも「歯磨きを１日２回以上する」と回答した人の割合が高くなっており、女性では約８割となっている。

【歯周病が全身の病気に関係があることを知っているかについて】





資料：第２期健康たけとよスマイルプラン中間評価アンケート集計結果

「あなたは、歯周病が全身の病気に関係があることを知っていましたか？」という設問に対して、「知っていた」と回答した人の割合は男性で５２．７％であるのに対し、女性で６７．０％と高くなっている。

また、男女とも２０歳代の認知度は低く、４０歳代以上で高くなっている。

課題

❶ ３歳児でう蝕がない子の減少

平成２３年度と比較して、１２歳でう蝕がない児童の割合が高くなっているのに対し、３歳児においては低くなっている。乳歯のう蝕は永久歯への影響も示唆されており、乳幼児期における口腔管理は非常に重要であると考えられる。そのためにも、引き続き保護者への情報提供及び個別指導を実施する必要があると考える。

❷ 歯周病検診受診率の低迷

平成２３年度と比較して、歯周病検診の受診率は横ばいになっている。

また中間評価アンケートにおいて、過去１年間に歯科検診を受けた人の割合は６３．１％となっている。男女で比較すると、男性は５７．６％、女性は６７．４％であり、女性の方が高くなっている。さらに、歯の健康管理として実践していることにおいても、全ての項目で女性の方が高くなっている。歯の健康管理は美容の一環でもあることから、女性の方が実践している人の割合が高くなっているのではないかと考えられる。

また、歯周病は全身のあらゆる病気と関連があるため、健康管理において歯周病予防は重要である。さらに、喫煙と歯周病の関係性も明らかになっていることから、女性よりも喫煙率の高い男性において、歯科保健がより重要となってくると考える。

課題解決のための方向性

❶ ３歳児でう蝕がない子の増加

- ○　子どもの生活習慣とう蝕の影響を理解する親の増加
- ○　子どもの歯の健康を意識する親の増加

❷ 歯周病検診受診率の向上

- ○　歯周病と全身の病気について知っている人の増加
- ○　歯の健康管理を実践する人の増加

実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	歯周病検診	40～75 歳までの 5 歳刻みの住民に、歯周病検診を実施する。	健康課
2	妊産婦歯科健康診査受診票の交付	妊婦または産婦に対して、虫歯・歯周病などの診察、ブラッシング指導、歯科相談を歯科医師が実施する。	健康課
3	10 か月児すくすく相談	歯科衛生士による歯科衛生講話を実施する。	健康課
4	1 歳 6 か月児・2 歳児・3 歳児健康診査（歯科健診）	歯科健診、フッ化物歯面塗布、ブラッシング指導を実施する。	健康課
5	虫歯予防教室	町立保育園年長児と保護者に対し、保健師によるブラッシングの実技指導と歯科衛生講話を実施する。	健康課 子育て支援課
6	歯と口の健康週間事業	歯科医師による歯科検診、乳幼児のフッ化物歯面塗布を実施する。	健康課
7	各種健康教育・啓発事業	町主催のイベントや各種教室、広報において、歯の健康について周知を図る。	健康課
8	8020 表彰	80 歳以上で 20 本の歯がある高齢者の表彰を実施する。	健康課
9	学校保健との連携	各地区の健康課題等を盛り込んだ健康教育を実施し、生活習慣病予防や健康意識の向上・健康づくりのきっかけとする。	健康課 学校教育課
10	企業・全国健康保険協会愛知支部等との協働と連携	企業や全国健康保険協会愛知支部等と連携し、健康課題の情報提供等を実施する。	健康課 保険医療課
11	学校健康診断（歯科検診）	小中学生の歯科検診を実施する。	学校教育課
12	フッ化物洗口	小学校でフッ化物洗口を実施する。	学校教育課

今後の目標

★はすでに達成し、さらに高くした目標

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値
① 歯周病検診受診率の増加			
歯周病検診受診率	13.5%	13.4%	20.0%
② 歯の喪失防止			
60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する人の割合	76.3%	88.5%	90.0%
40 歳で喪失歯のない人の割合	87.1%	93.2%	95.0%
③ 歯周疾患を有する人の減少			
進行した歯周炎を有する人の割合（CPI 3 または 4 に該当する人）			
40 歳代	32.3%	13.5%	★10.0%
60 歳代	30.3%	21.2%	15.0%
④ 過去 1 年間に歯科検診を受診した人の増加			
過去 1 年間に歯科検診を受診した人の割合	未把握	63.1%	70.0%
⑤ 1 日に 2 回以上歯をみがく人の増加			
1 日に 2 回以上歯をみがく人の割合	67.2%	70.0%	80.0%
⑥ 3 歳児でう蝕がない子の増加			
3 歳児健康診査の歯科検診においてう蝕罹患型がＯ型の子の割合	89.0%	85.5%	95.0%
⑦ 12 歳でう蝕がない児童の増加			
学校健康診査の歯科検診における 12 歳児（中学1年生）の永久歯のう蝕がない児童の割合	59.8%	72.3%	★77.0%

（８）子どもの健康

めざす姿

子どもの笑顔は宝物！子どもが元気に生まれ育つまち

方向性

将来を担う次世代の健康づくりとして、特に妊産婦や子どもに焦点を当てた取り組みをすすめる。

【個人・家庭の取組】
- ○　妊娠・出産・育児に関する正しい情報を入手し、知識を深める
- ○　子育てについて周囲へ相談

【地域・職場の取組】
- ○　地域の子どもの成長に関心を持ち、必要に応じて助け合う
- ○　母親同士の交流の場を設ける

【行政の取組】
- ○　母子保健事業の充実
- ○　保護者が自信とゆとりを持ち、安心して相談・交流できる場の提供
- ○　成長に課題のある子どもとその家族に対する相談・療育体制の充実
- ○　要保護・要支援家庭に対する相談・支援体制の充実

指標の達成状況

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
① 安全な妊娠・出産の確保のため、妊娠初期からの妊婦健診受診の促進				
11 週以下での妊娠届出率	96.4%	97.6%	100.0%	B-
② 出産後1か月児の母乳育児の増加				
1 か月児健診時の栄養方法が「母乳」または「混合」の割合	91.7%	93.4%	維持・増加	C
③ 全出生数中の低出生体重児の減少				
出生時の体重が 2500g 未満の出生割合	10.5%	13.0% (H26 年度)	減少	D
④ お元気ですか訪問実施率の増加				
お元気ですか訪問の実施率	90.3%	99.0%	100.0%	B+
⑤ 母子健康診査受診率の維持・増加				
母子健康診査受診率				
3 か月児健康診査	100.0%	96.7%	維持	C
1 歳 6 か月児健康診査	96.7%	98.4%	維持・増加	C
2 歳児歯科健康診査	94.9%	97.1%	維持・増加	C
3 歳児健康診査	98.1%	98.9%	維持・増加	C
⑥ かかりつけの小児科を持っている家庭の増加				
かかりつけの小児科を持っている家庭の割合				
1 歳 6 か月児健康診査時	未把握	98.0%	100.0%	E
3 歳児健康診査時	未把握	89.9% (H28 年度暫定値)	100.0%	E
⑦ 休日・夜間の小児救急医療機関を知っている家庭の増加				
休日・夜間の小児救急医療機関を知っている家庭の割合				
1 歳 6 か月児健康診査時	未把握	72.1%	100.0%	E
3 歳児健康診査時	未把握	72.9%	100.0%	E
⑧ 乳幼児のいる家庭で、事故予防対策を実施している家庭の増加				
3 か月児健康診査時 「たばこ・ボタン電池・硬貨は、1m以上の高さのところにおいている」と回答した家庭の割合	70.4%	71.7%	100.0%	C
1 歳 6 か月児健康診査時 「風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないようにしている」と回答した家庭の割合	47.6%	48.9%	100.0%	C
3 歳児健康診査時 「ベランダや窓のそばに踏み台になるものを置かないようにしている」と回答した家庭の割合	96.5%	95.8%	100.0%	D

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値	評価
⑨　ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の増加				
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合				
3 か月児健康診査時	84.2%	88.9%	維持・増加	B
1 歳 6 か月児健康診査時	80.9%	81.6%	維持・増加	C
3 歳児健康診査時	74.8%	69.8%	維持・増加	D
⑩　育児について相談相手のいる母親の増加				
育児について相談相手のいる母親の割合				
3 か月児健康診査時	99.0%	98.7%	維持・増加	C
1 歳 6 か月児健康診査時	99.5%	99.2%	維持・増加	C
3 歳児健康診査時	99.3%	97.7%	維持・増加	C
⑪　子育てしやすいまちと感じている人の増加				
子育てしやすいまちと感じている人の割合	未把握	41.6%	増加	E

【各指標項目の資料等】

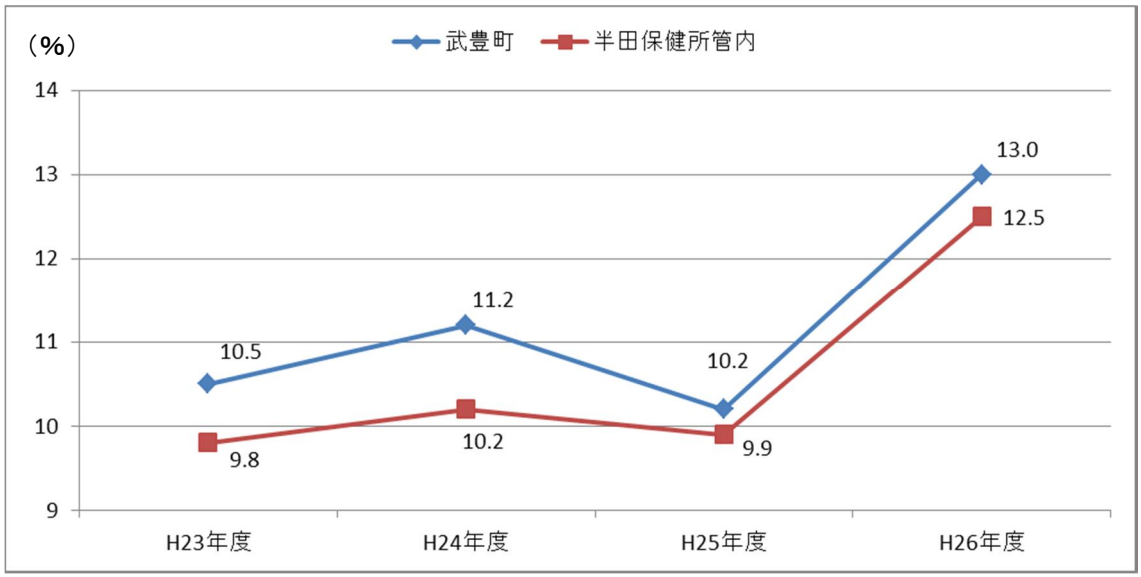
項目	資料	担当
①②④	平成２７年度母子保健報告	健康課
③	平成２７年度母子保健統計	健康課
⑤	実績並びに主要施策報告書	健康課
⑥⑦	健康かるて	健康課
⑧⑨⑩	母子健康診査マニュアル集計結果	健康課
⑪	第５次武豊町総合計画・後期戦略プラン	企画政策課

削除・変更した指標

変更前		変更後
１か月児健診時の栄養方法が「母乳」の割合	⇒	１か月児健診時の栄養方法が「母乳」または「混合」の割合
理由：母乳育児を希望していても、様々な理由でできない場合があるため。		

現状・考察

【低出生体重児の割合について】

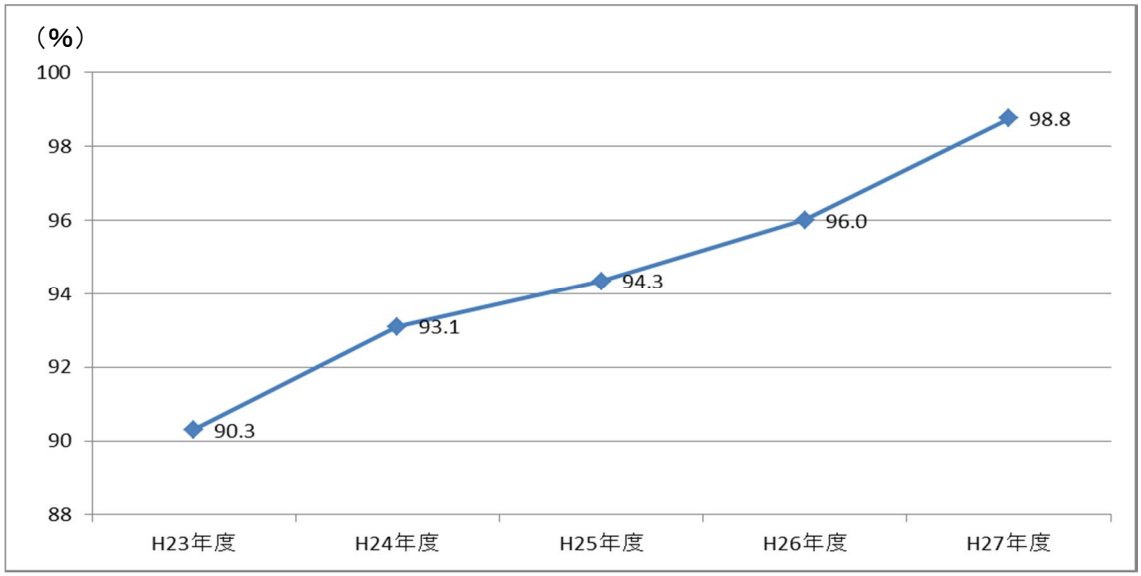


資料：母子保健統計（知多半島医療圏）

平成２７年度の低出生体重児の出生割合が確定していなかったため、今回の中間評価において平成２６年度の割合を用いて評価を行うこととする。

平成２３年度以降の低出生体重児の年次推移は、平成２５年度までは横ばいになっており、平成２６年度で増加している。また、半田保健所管内においても同様の傾向がみられる。

【お元気ですか訪問実施率について】



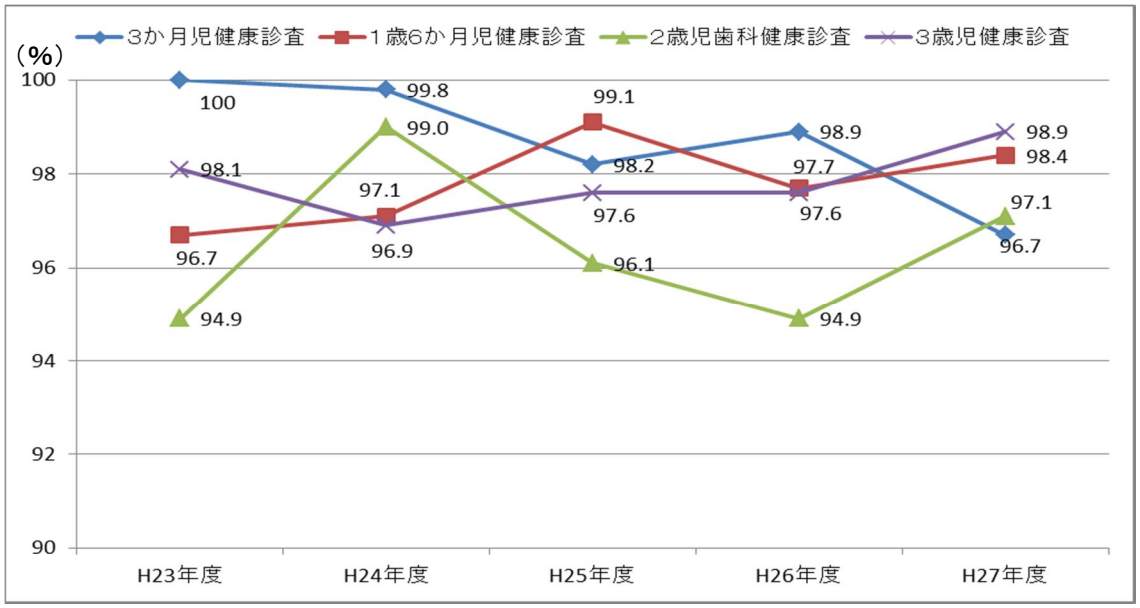
資料：健康かるて

平成２３年度以降のお元気ですか訪問実施率の年次推移は、増加傾向になっている。必要に応じて他市町と連携を図りながら、本町全ての乳児に実施できるよう努めており、平成２７年度においては９８．８％と高い実施率となっているが、目標には到達していない。

しかし、入院や里帰り中など何らかの事情により訪問できない場合もあるため、その際は電話や医療機関との情報共有などによる訪問以外の手段を用いて、３か月児健康診査までの状況把握を実施している。

今後も高い実施率を維持するとともに、状況把握を実施して継続的支援に努めていく。

【母子健康診査受診率について】



資料：健康かるて

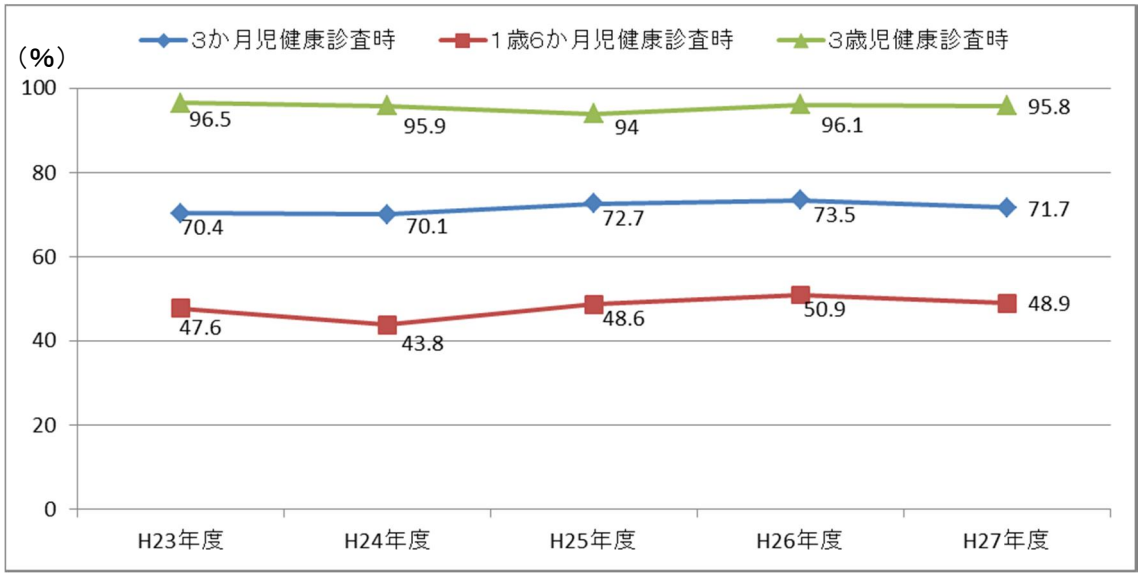
平成２３年度以降の母子健康診査受診率の年次推移は、増減しながらも９割以上の高い受診率を維持している。その理由として、未受診者へのハガキや電話による勧奨を実施しているからではないかと考えられる。また、電話や訪問等による事後フォローも実施しており、乳幼児及びその保護者への継続的支援に努めている。

今後も高い受診率を維持するとともに、事後フォローや状況把握を実施していく必要があると考える。

【かかりつけの小児科を持っている家庭の増加について】

かかりつけの小児科を持っている家庭の割合は、母子健康診査問診票により把握している。３か月児健康診査時、３歳児健康診査時においては、平成２８年４月より問診票に追加された項目であることから、今回の中間評価においては平成２８年４月から平成２９年１月までの暫定値を記載する。そのため次回の中間評価において、暫定値を集計しなおすこととする。

【事故予防対策を実施している家庭について】



資料：健康かるて（母子健康診査問診項目集計結果）

平成２３年度から平成２７年度までの事故予防対策を実施している家庭の年次推移は、横ばいになっている。また、１歳６か月児健康診査時において「風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないようにしている」と回答した家庭の割合が５割以下であり、３か月児、３歳児と比較して圧倒的に低くなっている。

課題

❶ 低出生体重児の割合の増加

低出生体重児の割合が増加傾向にあり、県と比較して高くなっている。低出生体重児は出生後の成長発達の面からも、育児に課題を抱えることが多く、それに伴い母親の身体的・精神的負担も大きくなることが予測される。そのため、妊娠中から生活指導と確実で適切な時期での健診勧奨が必要である。また産・小児科と連携し、情報を共有して早期からの個別支援をきめ細やかに行う必要があると考える。

❷ 事故予防対策を実施している家庭の低迷

事故予防対策を実施している家庭は横ばいになっており、３か月児および１歳６か月児健康診査時の項目において、目標を大きく下回っている。そこで実現可能な目標値として、３か月児健康診査時においては８０．０%、１歳６か月児健康診査時においては６０．０%と再設定する。

乳幼児死亡の原因の多くが不慮の事故であることから、今後も乳幼児期の事故予防対策について啓発していく必要があると考える。

しかし事故予防に特化して事業を展開していくのは困難であるため、既存の事業を活用し事故予防対策の啓発に取り組む必要があると考える。

❸ 子どもが成長するごとに、ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がない母親の増加

ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合は、平成２７年度において３か月児健康診査時８８．９％、１歳６か月児健康診査時８１．６％、３歳児健康診査時６９．８％となっている。平成２３年度においても３歳児健康診査時における割合が低く、子どもが成長するごとにゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がないと感じる母親が増えている。

子どもの成長に伴い、より一層目が離せなくなるが、子どもの成長過程を理解することで心に余裕ができ、ゆったりとした気分で過ごせるのではないかと考える。

課題解決のための方向性

❶ 低出生体重児の割合の減少

○　喫煙など低出生体重児の出生リスクについて正しい知識を持っている人の増加

○　安全な妊娠出産のために、早い時期に妊娠届出ができる人の増加

❷ 事故予防対策を実施している家庭の増加

○　子どもの成長に起こりやすい事故について知っている人の増加

❸ ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の増加

○　子どもの成長過程について知っている人の増加

○　子育て期間中に相談できる相手や場所がある人の増加

実施事業・関連事業

No	事業名	事業内容	担当課
1	母子健康手帳交付・保健指導	母子健康手帳の交付及び活用方法の説明と、必要な保健指導を実施する。	健康課
2	妊産婦・乳児健康診査受診票の交付	妊婦健康診査、子宮頸がん検診、産婦健康診査、乳児健康診査を実施する。	健康課
3	フレッシュパパママ教室（両親学級）	妊婦及びその家族を対象とした子育て講座を実施する。	健康課
4	未熟児訪問	低出生体重児を把握し、早期に訪問指導を実施する。	健康課
5	お元気ですか訪問	生後 2～3 か月児の家庭に、3 か月児健康診査前に全戸訪問し、体重測定や育児相談を実施する。	健康課 子育て支援課
6	赤ちゃん教室（お世話編）	保健師による子育て講座、半田病院看護師による乳児のホームケア、病院のかかり方についての講義を開催する。	健康課
7	3 か月児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、個別育児指導、防災に関する講話を実施する。	健康課 子育て支援課
8	7 か月児すくすく相談	身体測定、個別育児指導、絵本の読み聞かせと絵本の紹介、個別栄養相談（希望者）を実施する。	健康課
9	10 か月児すくすく相談	身体測定、個別育児指導、赤ちゃんの歯についての講話、個別歯科相談（希望者）を実施する。	健康課
10	1 歳 6 か月児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談（必要児）を実施する。	健康課 子育て支援課
11	2 歳児歯科健康診査	問診、身体測定、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談（必要児）を実施する。	健康課 子育て支援課
12	3 歳児健康診査	問診、身体測定、医師の診察、歯科医師の診察、ブラッシング指導、フッ化物歯面塗布、個別育児指導、心理相談（必要児）を実施する。	健康課 子育て支援課
13	未受診者把握	各健診の未受診者の追跡を実施し、現状把握をする。	健康課 子育て支援課
14	育児相談・おしゃべりサロン	保健師による身体計測、個別育児相談を行う。育児相談の待合スペースを「おしゃべりサロン」とし、親子の交流の場として開放する。	健康課
15	心理相談	心理相談員による個別心理相談を実施する。	健康課
16	面接・電話相談	乳幼児・妊産婦等を対象に、保健師による面接相談、電話相談を実施する。必要時関係機関と合同面接、今後の処遇について検討する。	健康課 子育て支援課
17	家庭訪問	乳幼児・妊産婦を対象に、保健師による家庭訪問を実施する。必要時関係機関と合同面接、今後の処遇について検討する。	健康課 子育て支援課

No	事業名	事業内容	担当課
18	親子遊び方教室	保健師、指導保育士、主任保育士、子育て支援センター保育士、あおぞら園主任保育士、児童館厚生員がスタッフとして参加し、自由遊び、体操、親子で取り組める集団設定遊びを通じて、親子のかかわりや子どもの発達を観察する。スタッフによる個別育児相談を実施し、必要に応じて専門相談機関の紹介をする。	子育て支援課 健康課
19	あおぞら園・園庭開放での健康教育、育児相談	保健師による育児相談、健康教育を実施し、入園後の親子のかかわりや子どもの発達の変化について観察する。	子育て支援課 健康課
20	要保護児童対策事業	武豊町要保護児童対策地域協議会実務者会議（知多児童相談センター、学校、役場などで構成）にて、要保護家庭の情報を共有化し、具体的な支援の検討をする。 家庭訪問や定期面接などで、家庭の状況・児の様子について把握し、必要な支援を実施する。	子育て支援課 健康課 学校教育課
21	学校保健との連携	学校保健委員会等で、小中学生への健康教育を実施する。	学校教育課 健康課
22	不妊治療費等助成	一般不妊検査、治療及び人工受精に対しての治療費について、年間5万円を限度に5年度分まで助成する。	健康課
23	子ども（A類）予防接種事業	子ども（20 歳未満）に対して、予防接種を実施することで、疾病の伝染や発生及びまん延を予防する。	健康課
24	未熟児養育医療	2000グラム以下の未熟児または2000グラム以上であっても指定医療機関の医師が入院養育を必要であると認めた乳児に対して、医療費の一部を助成する。	保険医療課 健康課
25	こども相談	0歳～15歳の子どもをもつ保護者を対象に、主任児童委員が毎月1回中央公民館において相談を受ける。	子育て支援課

新規指標

３か月児健康診査時における、かかりつけの小児科を持っている家庭の割合

理由：３か月児健康診査の問診票に追加されたため。

この地域で今後も子育てしていきたいと感じている人の割合

理由：母子健康診査の問診票に追加された項目であり、子育てしやすいまちと感じている人の指標として適しているため。

【新規指標の資料等】

資料	担当
健康かるて（母子健康診査問診項目）	健康課

※平成２８年４月より問診票に追加された項目であることから、平成２８年４月から平成２９年１月までの暫定値を記載する。そのため次回の中間評価において、暫定値を集計しなおすこととする。

今後の目標

指標	策定値（H23 年度）	中間評価（H27 年度）	目標値
① 安全な妊娠・出産の確保のため、妊娠初期からの妊婦健診受診の促進			
11 週以下での妊娠届出率	96.4%	97.6%	100.0%
② 出産後1か月児の母乳育児の増加			
1 か月児健診時の栄養方法が「母乳」または「混合」の割合	91.7%	93.4%	維持・増加
③ 全出生数中の低出生体重児の減少			
出生時の体重が 2500g 未満の出生割合	10.5%	13.0% (H26 年度)	9.6%
④ お元気ですか訪問実施率の増加			
お元気ですか訪問の実施率	90.3%	99.0%	100.0%
⑤ 母子健康診査受診率の維持・増加			
母子健康診査受診率			
3 か月児健康診査	100.0%	96.7%	100.0%
1 歳 6 か月児健康診査	96.7%	98.4%	100.0%
2 歳児歯科健康診査	94.9%	97.1%	100.0%
3 歳児健康診査	98.1%	98.9%	100.0%
⑥ かかりつけの小児科を持っている家庭の増加			
かかりつけの小児科を持っている家庭の割合			
3 か月児健康診査時	未把握	82.8%	100.0%
1 歳 6 か月児健康診査時	未把握	98.0%	100.0%
3 歳児健康診査時	未把握	89.9% (H28 年度暫定値)	100.0%
⑦ 休日・夜間の小児救急医療機関を知っている家庭の増加			
休日・夜間の小児救急医療機関を知っている家庭の割合			
1 歳6か月児健康診査時	未把握	72.1%	100.0%
3 歳児健康診査時	未把握	72.9%	100.0%

指標	策定値 （H23 年度）	中間評価 （H27 年度）	目標値
⑧ 乳幼児のいる家庭で、事故予防対策を実施している家庭の増加			
3 か月児健康診査時 「たばこ・ボタン電池・硬貨は、1m以上の高さのところにおいている」と回答した家庭の割合	70.4%	71.7%	80.0%
1 歳 6 か月児健康診査時 「風呂場のドアを乳幼児が自分で開けることができないようにしている」と回答した家庭の割合	47.6%	48.9%	60.0%
3 歳児健康診査時 「ベランダや窓のそばに踏み台になるものを置かないようにしている」と回答した家庭の割合	96.5%	95.8%	100.0%
⑨ ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の増加			
ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合			
3 か月児健康診査時	84.2%	88.9%	90.0%
1 歳 6 か月児健康診査時	80.9%	81.6%	90.0%
3 歳児健康診査時	74.8%	69.8%	80.0%
⑩ 育児について相談相手のいる母親の増加			
育児について相談相手のいる母親の割合			
3 か月児健康診査時	99.0%	98.7%	100.0%
1 歳 6 か月児健康診査時	99.5%	99.2%	100.0%
3 歳児健康診査時	99.3%	97.7%	100.0%
⑪ 子育てしやすいまちと感じている人の増加			
子育てしやすいまちと感じている人の割合	未把握	41.6%	60.0%
この地域で今後も子育てをしていきたいと感じている人の割合			
3 か月児健康診査時	未把握	97.7%	100.0%
1 歳 6 か月児健康診査時	未把握	95.3%	100.0%
3 歳児健康診査時	未把握	96.2% （H28 年度暫定値）	100.0%

参考資料

（1）　住民に実施したアンケート内容

第2期健康たけとよ21　スマイルプラン中間評価アンケート

問１　あなたの性別は？

１　男　　２　女

問２　あなたの年齢は？

歳

問３　あなたの身長は？

身長　　ｃｍ

問４　あなたの体重は？

体重　　ｋｇ

問５　あなたの職業は？

１　会社員・公務員	２　自営	３　派遣・パート・アルバイト
４　学生	５　働いていない	６　その他（　　）

【健康づくり】

問６　あなたは今までに、次のような病気にかかったことはありますか？
（現在治療中のものも含めて、あてはまる番号すべてに〇）

１　なし	２　高血圧	３　脂質異常症（高コレステロール血症）
４　糖尿病	５　がん	６　狭心症・心筋梗塞
７　肝臓病	８　脳卒中	９　胃・十二指腸潰瘍
10　骨粗しょう症	11　歯周病	12　精神疾患
13　その他（　　）		

問７　あなたは過去１年間に、健診（健康診断や健康診査）や人間ドックを受けましたか？
（血液・尿検査等。歯科は除く）

１　受けた　　２　受けていない

問７-１　<u>問７で「２　受けていない」と答えた方にお伺いします。</u>
健診を受けていない理由は？（あてはまる番号すべてに〇）

１　健康に自信がある	２　面倒くさい	３　忙しい
４　何か指摘されるのが怖い	５　健診そのものが苦痛	６　必要に感じない
７　受診できる機会がない	８　受診できる場が分からない	９　通院中
10　その他（　　）		

問８　あなたは自分自身のことを健康だと思いますか？

1　健康だと思う	2　まあまあ健康だと思う
3　あまり健康だと思わない	4　健康だと思わない

問９　あなたが健康だと感じるのは、どんなときですか？（あてはまる番号すべてに○）

1　自分のことが自分でできる	2　社会に貢献できる・自分の役割がある
3　病気・障がいがない	4　病気や障がいがあっても、日常生活や仕事に支障がない
5　趣味が楽しめる	6　食事がおいしい
7　その他（　　）	

問１０　あなたが健康について関心のある情報は何ですか？（あてはまる番号すべてに○）

1　食事・栄養	2　歯の健康	3　休養・心の健康	4　禁酒
5　禁煙	6　運動	7　健診情報	
8　その他（　　）			

問１１　あなたは健康に関する情報をどこから得ていますか？（あてはまる番号すべてに○）

1　テレビ・ラジオ	2　新聞・雑誌・書籍	3　インターネット
4　かかりつけの病院	5　保健センター	6　町の広報・ホームページ
7　その他（　　）		

問１２　あなたは今、この地域で安心して暮らしていますか？

1　はい	2　いいえ

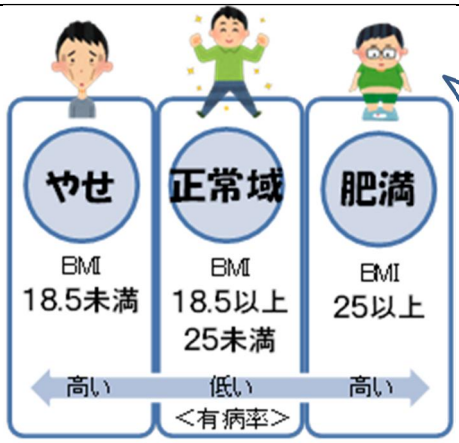
問１３　あなたは趣味の会やスポーツの会に参加していますか？

1　はい	2　いいえ

【栄養・食生活】

問１４　あなたは BMI を知っていましたか？

1　言葉も意味も知っていた
2　言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった
3　知らなかった



BMI とは、大人の体格（身長と体重のバランス）の目安を表すもので、**体重(kg)÷ 身長(m) ÷ 身長(m)** で求めることができます。
BMI が22のときの体重を「適正体重」と言い、統計的に見て一番病気になりにくく、22から離れるほど有病率が高くなると言われています。

問１５　あなたは１日に ２ 回以上、主食・主菜・副菜を３つそろえて食べることが、週に何日ありますか？

１　ほとんど毎日食べる	２　週４～５日食べる	３　週２～３日食べる	
４　ほとんど食べない			

問１６　あなたは野菜のおかずを１日何皿分食べますか？

１　５皿分以上	２　３～４皿分	３　１～２皿分	４　ほとんど食べない

小鉢の野菜のおかずを1皿分（約70g）、大皿の野菜のおかずを2皿分と数えます。
付け合わせの野菜は、合わせて小鉢1皿分に相当するなら1皿分と数えます。

【例】

青菜のお浸し（1鉢） 1皿分	野菜サラダ（1皿） 1皿分	カボチャの煮物（1鉢） 1皿分
生春巻き（2本） 2皿分	野菜炒め（1人前） 2皿分	野菜カレー（1人前） 2皿分

問１７　あなたは外食や買い物のとき、カロリーなどの栄養成分表示を参考にしていますか？

１　はい	２　いいえ

問１８　あなたはよく噛んで、毎食の食事時間を１５分以上にしていますか？

１　はい	２　いいえ

問１９　あなたは週に一度は、楽しく食事をする時間を作っていますか？

１　はい	２　いいえ

問２０　あなたは食事をするとき、腹八分目にしていますか？

１　はい	２　いいえ

問２１　あなたは食事を毎日とりますか？毎日とる食事に〇をつけてください。
（あてはまる番号すべてに〇）

１　朝食	２　昼食	３　夕食

【運動・身体活動】

問２２　あなたは、日常生活において歩行又は同等の身体活動を、１日１時間以上行っていますか？

１　はい	２　いいえ

問２３　あなたは１回３０分以上の軽く汗をかく運動を、週２日以上行っていますか？

１　はい	２　いいえ

問２３-１　<u>問２３で「１　はい」と答えた方にお伺いします。</u>
どのくらい継続していますか？

１　１年以上	２　１年未満

問２３-２　<u>問２３で「２　いいえ」と答えた方にお伺いします。</u>
理由は何ですか？（あてはまる番号すべてに〇）

１　運動が嫌い	２　時間がない	３　仲間がいない
４　場所がない	５　病気等のためできない	６　必要ない
７　その他（　　）		

問２４　あなたはロコモティブシンドローム（運動器症候群）を知っていましたか？
（あてはまる番号すべてに〇）

１　言葉も意味も知っていた
２　言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった
３　知らなかった

ロコモティブシンドロームとは、運動器（骨、関節、筋肉など）の衰えにより、
日常生活での自立度が低下し、要介護になる可能性の高い状態です。
歩行速度が遅い高齢者ほど、要介護状態になりやすいことが知られています。

【休養・こころの健康】

問２５　あなたはここ２週間、毎日の生活に充実感がないと感じますか？

１　はい	２　いいえ

問２６　あなたはここ２週間、これまで楽しんでやれたことが楽しめなくなりましたか？

１　はい	２　いいえ

問２７　あなたはここ２週間、以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられますか？

１　はい	２　いいえ

問２８　あなたはここ２週間、自分が役に立つ人間だと思えないと感じることがありますか？

１　はい	２　いいえ

問２９　あなたはここ２週間、わけもなく疲れたように感じることがありますか？

１　はい	２　いいえ

問３０　あなたはここ１か月、睡眠で休養がとれていますか？

１　十分にとれている	２　まあまあとれている
３　あまりとれていない	４　全くとれていない

問３１　あなたは自分の楽しみを持っていますか？

１　持っている	２　持っていない

問３２　あなたは悩みや心配事が相談できる相手や場所がありますか？

１　ある	２　ない

【アルコール】

問３３　あなたはお酒を飲みますか？

１　飲む	２　飲まない	３　ほとんど飲まない	４　以前は飲んでいたがやめた

問３３-１　<u>問３３で「１　飲む」と答えた方にお伺いします。</u>
どのくらいの頻度で飲みますか？

１　毎日	２　週５～６回	３　週３～４回	４　週１～２回	５　月に１～２回

問３３-２　<u>問３３で「１　飲む」と答えた方にお伺いします。</u>
どのくらいの量を飲みますか？

１　１合未満	２　１合以上２合未満	３　２合以上３合未満	４　３合以上

１日の適正量の目安は、清酒１合（180ml）程度。他のお酒に換算すると…

【たばこ】

問３４　あなたはたばこを吸いますか？

1　吸う	2　吸わない	3　以前は吸っていたがやめた

問３４-１　問３４で「１　吸う」と答えた方にお伺いします。
１日何本、何年間吸っていますか？

１日平均　　本	年間

問３４-２　問３４で「１　吸う」と答えた方にお伺いします。
たばこを吸うことについて、どう思いますか？

1　やめたい	2　本数を減らしたい	3　たばこをやめたいとは思わない

問３４-３　問３４で「３　以前は吸っていたがやめた」と答えた方にお伺いします。
禁煙できたきっかけは何ですか？（あてはまる番号すべてに○）

1　健康のことを考えてやめた	2　家族のことを考えてやめた
3　周りからやめるように説得された	4　たばこの価格が高くなったから
5　その他（　　）	

問３５　あなたは COPD（慢性閉塞性肺疾患）を知っていましたか？

1　言葉も意味も知っていた
2　言葉は聞いたことがあるが、意味は知らなかった
3　知らなかった

COPDとは、長期の喫煙によってもたらされる肺の炎症性疾患で、主に咳・痰・息切れなどの症状があり、ゆるやかに呼吸障害が進行する、かつて「肺気腫」、「慢性気管支炎」と称された疾患です。

問３６　あなたが知っている、喫煙に関する病気は何ですか？（あてはまる番号すべてに○）

1　肺がん	2　ぜんそく	3　気管支炎	4　心臓病
5　脳卒中	6　胃潰瘍	7　妊娠に関する異常	8　歯周病
9　知らない	10　その他（　　）		

【歯の健康】

問３７　あなたは過去１年間に歯科検診を受けましたか？

1　受けた	2　受けなかった

問３８　あなたは歯の健康管理として実践していることはありますか？（あてはまる番号すべてに○）

１　歯磨きを１日２回以上する
２　フッ素入りの歯磨き剤を使っている
３　歯の治療は早めに受けるようにしている
４　デンタルフロス・歯間ブラシなど歯の間を清掃する器具を使っている
５　その他（　　）

フッ素入りの歯磨き剤は、成分表示に
フッ化ナトリウム・フッ化スズ・モノフルオロリン酸ナトリウムの
いずれかが表記されています

問３９　あなたは、歯周病が全身の病気に関係があることを知っていましたか？

１　知っていた	２　知らなかった

歯周病は、呼吸器疾患・心疾患・糖尿病
などの病気と関連しています

問４０　あなたは８０２０運動を知っていましたか？

１　知っていた	２　知らなかった

8020運動とは、80歳以上で20本以上の自分
の歯を持っている人を増やそうという運動です

健康づくりに関するご意見や、保健センターに取り組んでほしいことがあればご記入ください

（2）　町内小学校高学年に実施したアンケート内容

第２期　健康たけとよ２１スマイルプラン　中間評価

【平成２８年度　健康についてのアンケート】

武豊町保健センター

保健センターでは、子どもたちが健康で楽しくくらせる武豊町にするために、小学生のみなさんの普段の様子について調べることになりました。

しつもんを読んで、あてはまるところに〇をつけてください。まよう時は多いとおもう方に〇をつけてください。

＜あなたは＞

今、何年生ですか？⇒　小学4年生　　小学5年生　　小学6年生

性別は？　　⇒　男子　　女子

＜食事について＞

1 あなたは朝ごはん・昼ごはん・夕ごはんの3食をかならず食べていますか？

はい　　いいえ

↓「いいえ」と答えた人のみ

食べていないのはどれですか？

朝ごはん　・　昼ごはん　・　夕ごはん

2 あなたは朝ごはんを誰と食べることが多いですか？

家族と食べる　　一人で食べる

3 あなたは夕ごはんを誰と食べることが多いですか？

家族と食べる　　一人で食べる

4 あなたは主食（しゅしょく）・主菜（しゅさい）・副菜（ふくさい）を知っていますか？

はい　　いいえ

5 あなたは野菜を朝ごはん・昼ごはん・夕ごはんの3食、食べていますか？

はい　　いいえ

↓「いいえ」と答えた人のみ

野菜を食べていないのはどれですか？

朝ごはん　・　昼ごはん　・　夕ごはん

6 あなたは食事の時間が好きですか？

はい　　いいえ

7 あなたは家で料理を作ったり、作る手伝いをしていますか？

はい　　いいえ

＜運動について＞

1 あなたは体育の授業や学校の休み時間以外に、運動（スポーツ）や体を動かす遊びを週に3日以上していますか？（3日は含みます）

はい　　いいえ

＜お酒やたばこについて＞

1 あなたは、子ども（20さいまでの人）が「お酒（アルコール）」を飲むと、体にわるいことを知っていますか？

はい　　いいえ

2 あなたは、たばこをすうことが体にわるいことを知っていますか？

はい　　いいえ

3 あなたは、人がすっているたばこのけむりをすうことも体にわるいことを知っていますか？

はい　　いいえ

4 あなたのまわりの人で、たばこをすっている人はいますか？

はい　　いいえ

第２期　健康たけとよ２１スマイルプラン

- 中間評価・見直し -

平成２９年３月

武豊町　健康福祉部　健康課